

(様式第 10)

番 21-757 号
令和 3年10月 2日

厚生労働大臣

殿

学校法人 帝京大学
開設者名 理事長 冲永 佳史

帝京大学医学部附属病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和 23 年法律第 205 号）第 12 条の 3 第 1 項及び医療法施行規則（昭和 23 年厚生省令第 50 号）第 9 条の 2 の 2 の第 1 項の規定に基づき、令和 2 年度の業務に関して報告します。

記

1 開設者の住所及び氏名

住 所	〒173-8605 東京都板橋区加賀2-11-1
氏 名	学校法人 帝京大学

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名 称

帝京大学医学部附属病院

3 所在の場所

〒173-8606 東京都板橋区加賀2-11-1	電話(03)3964-1211(代)
-----------------------------	--------------------

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

① 医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、有すべき診療科名すべてを標榜
2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定により読み替えられた同条第一項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

(注) 上記のいずれかを選択し、番号に○印を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1) 内科

内科	(有) ・ 無		
内科と組み合わせた診療科名等			
1 呼吸器内科	2 消化器内科	③ 循環器内科	4 腎臓内科
⑤ 脳神経内科	6 血液内科	7 内分泌内科	8 代謝内科
9 感染症内科	10 アレルギー疾患内科またはアレルギー科	11 リウマチ科	
診療実績			

(注) 1 「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

2 「診療実績」欄については、「内科と組み合わせた診療科名等」欄において、標榜していない診療科がある場合、その診療科で提供される医療を、他の診療科で提供している旨を記載すること。

(2) 外科

外科	(有) ・ 無
外科と組み合わせた診療科名 ①呼吸器外科 ②消化器外科 3乳腺外科 4心臓外科 5血管外科 ⑥心臓血管外科 7内分泌外科 ⑧小児外科	
診療実績	

(注) 1 「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

2 「診療実績」欄については、「外科」「呼吸器外科」「消化器外科」「乳腺外科」「心臓外科」「血管外科」「心臓血管外科」「内分泌外科」「小児外科」のうち、標榜していない科がある場合は、他の標榜科での当該医療の提供実績を記載すること（「心臓血管外科」を標榜している場合は、「心臓外科」「血管外科」の両方の診療を提供しているとして差し支えないこと）。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

①精神科 ②小児科 ③整形外科 ④脳神経外科 ⑤皮膚科 ⑥泌尿器科 ⑦産婦人科 8産科 9婦人科 ⑩眼科 ⑪耳鼻咽喉科 ⑫放射線科 13放射線診断科 14放射線治療科 ⑬麻酔科 ⑭救急科

(注) 標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科	(有) ・ 無
歯科と組み合わせた診療科名 ①小児歯科 ②矯正歯科 ③口腔外科	
歯科の診療体制	

(注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1 緩和ケア内科 2 腫瘍内科 3 形成外科 4 病理診断科 5 リハビリテーション科 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21
--

(注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
47床	床	床	床	1,031床	1,078床

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職 種	常 勤	非常勤	合 計	職 種	員 数	職 種	員 数
医 師	481人	1.64人	482.6人	看 護 補 助 者	7人	診療エックス線技師	人
歯 科 医 師	8人	0.14人	8.1人	理 学 療 法 士	27人	臨床検査技師	83人
薬 剤 師	77人	0.525人	77.5人	作 業 療 法 士	8人	衛生検査技師	人
保 健 師	人	人	人	視 能 訓 練 士	11人	そ の 他	人
助 産 師	57人	0.6人	57.6人	義 肢 装 具 士	人	あん摩マッサージ指圧師	人
看 護 師	1144人	6.4人	1150.4人	臨 床 工 学 士	21人	医療社会事業従事者	7人
准 看 護 師	0人	人	人	栄 養 士	人	その他の技術員	18人
歯 科 衛 生 士	5人	人	5人	歯 科 技 工 士	人	事 務 職 員	175人
管 理 栄 養 士	9人	人	9人	診 療 放 射 線 技 師	53人	そ の 他 の 職 員	5人

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

専門医名	人 数	専門医名	人 数
総合内科専門医	53人	眼 科 専 門 医	11人
外 科 専 門 医	37人	耳 鼻 咽 喉 科 専 門 医	11人
精 神 科 専 門 医	9人	放 射 線 科 専 門 医	3人
小 児 科 専 門 医	19人	脳 神 経 外 科 専 門 医	10人
皮 膚 科 専 門 医	9人	整 形 外 科 専 門 医	29人
泌 尿 器 科 専 門 医	7人	麻 酔 科 専 門 医	23人
産 婦 人 科 専 門 医	13人	救 急 科 専 門 医	28人
		合 計	262人

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
 2 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 管理者の医療に係る安全管理の業務の経験

管理者名 (坂本 哲也) 任命年月日 平成28年4月1日

別紙 1 参照

9 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	640.3人	2.3人	642.6人
1日当たり平均外来患者数	1,383.5人	37.4人	1,420.9人
1日当たり平均調剤数	1479.6		剤
必要医師数	149.21人		
必要歯科医師数	1人		
必要薬剤師数	19人		
必要(准)看護師数	372人		

- (注)1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。
- 2 入院患者数は、前年度の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
- 3 外来患者数は、前年度の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 4 調剤数は、前年度の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要(准)看護師数については、医療法施行規則第二十二條の二の算定式に基づき算出すること。

10 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設 備 概 要			
集中治療室	1,504.53 m ² (1人当たり 25.1 m ²)		病床数	60床	心電計	有・無
			人工呼吸装置	有・無	心細動除去装置	有・無
			その他の救急蘇生装置	有・無	ペースメーカー	有・無
無菌病室等	[固定式の場合] 床面積 178.86 m ² [移動式の場合] 台数 2 台		病床数	12	床	
医薬品 情報管理室	[専用室の場合] 床積 30.81 m ² [共用室の場合] 共用する室名					
化学検査室	19.29m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) 低温恒温器,中央実験台,キューリーメータ			
細菌検査室	140.60m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) 全自動細菌検査装置,生物顕微鏡,安全キャビネット			
病理検査室	264.05m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) ミクローム,自動固定包埋装置,顕微鏡			
病理解剖室	74.58m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) 解剖台,臓器撮影台,臓器固定水洗槽			
研究室	3,067.52 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) ドラフトチャンバー等			
講義室	488.90m ²	鉄筋コンクリート	室数	13 室	収容定員	260 人
図書室	3,020.73 m ²	鉄筋コンクリート	室数	2 室	蔵書数	235,000 冊程度

- (注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。
- 2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

11 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

紹介率	92.2%	逆紹介率	67.0%
算出根拠	A: 紹介患者の数		17,536人
	B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数		16,152人
	C: 救急用自動車によって搬入された患者の数		4,850人
	D: 初診の患者の数		24,091人

(注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

12 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由（注）

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
寺尾 壽夫	東京都医師国保組合議員 脳神経内科医師	○	・医療に係る安全管理に関する識見を有する者 ・脳神経内科医師として医療に造詣が深いため	有・ 無	1
秦 奈峰子	太田・佐藤法律事務所 弁護士・医師		・医療に係る安全管理及び法律に関する識見を有する者 ・医師と弁護士の資格を持ち医療と法律双方を理解されているため	有・ 無	1
森 唯章	当院の患者代表		・医療を受ける者その他の医療従事者以外の者 ・当院に通院されている患者を代表して	有・ 無	2
川村 雅文	帝京大学医学部長		・当院での臨床経験がある中立的な評価ができる立場にある者 ・医学部を統括する者として	有 ・無	3
				有・無	
				有・無	

(注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1~3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1.に掲げる者を除く。）
3. その他

13 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由の公表の状況

委員名簿の公表の有無	有 ・無
委員の選定理由の公表の有無	有 ・無
公表の方法	
病院ホームページに公表	

2020年4月1日～2021年3月31日

○1承認を受けている先進医療(第2)

→なし

○2承認を受けている先進医療(第3)

先進医療の種類	取扱患者数(人)
ペムトレキセド静脈内投与及びシスプラチン静脈内投与併用療法肺がん(扁平上皮肺がん及び小細胞肺がんを除き、病理学的見地から完全に切除されたと判断されるものに限る。)	0
S-1内服投与、シスプラチン静脈内投与及びパクリタキセル腹腔内投与の併用療法 腹膜播種を伴う初発の胃がん	1
陽子線治療 根治切除が可能な肝細胞がん(初発のものであり、単独で発生したものであって、その長径が三センチメートルを超え、かつ、十二センチメートル未満のものに限る。)[外科的治療を実施する施設]	0
ニボルマブ静脈内投与及びドセタキセル静脈内投与の併用療法 進行再発非小細胞肺がん(ステージがⅢB期、ⅢC期若しくはⅣ期又は術後に再発したものであって、化学療法が行われたものに限る。)	0

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	ダビンチ支援下腓尾側切除術	取扱患者数	10人
当該医療技術の概要 以前より腹腔鏡下腓尾側切除を施行していたが、その技術を応用してダビンチを利用して腓尾側切除を施行する。			
医療技術名	ダビンチ支援下ヘルニア根治術	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要 以前は前方アプローチで施行していたヘルニア根治術を、腓尾側切除で培ったダビンチ支援手術の技術を応用して、ダビンチ支援下にヘルニア根治術を施行する。			
医療技術名	胃癌腹膜播種に対する腹腔内化学療法	取扱患者数	4人
当該医療技術の概要 胃癌腹膜播種に対しては経口・静脈投与による全身化学療法が標準的であるが、腹腔内に抗がん剤を注入する腹腔内化学療法も一定の効果があることが知られている。			
医療技術名	Tranjsugular Intrahepatic Portosystemic Shunt (TIPS)	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要 難治性腹水や、内視鏡治療やIVRでの治療が不応の食道胃静脈瘤に対して、下大静脈と門脈系を直接短絡させる手技。技術的にも難しいことから、国内で技術的にも、実施可能施設が乏しく帝京大学で施行した。尚、国内で定期的にも実施している施設は本校のみである。			
医療技術名	胸管(リンパ管)塞栓	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要 乳び胸水を代表とするリンパ漏に対して、これまで直視下に胸管結紮を行ってきたが、血液と異なり、リンパ液は、透明であり治療成績は十分なものではない。我々は、リンパ路を造影剤で描出し直接胸管を穿刺し、経皮的に塞栓術を行った。これまでは、外傷性乳糜胸水や、特発性乳糜胸水症例に対して実施していたが、今年度は新たに乳糜心嚢液症例に対して実施し良好な経過を辿っている。			
医療技術名	PLE(蛋白漏出性胃腸症)に対する塞栓術	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要 Fontan術後合併症で、特に蛋白漏出性胃腸症はこれまで保存的治療が行われ、限界とされてきたが、2018年に本邦で初めて当科で肝臓内リンパ管塞栓術を施行した。2019年度にも1名に実施し良好な成績を挙げている。この手技は、肝臓内のリンパ管をエコーガイドで穿刺し、液状塞栓物質であるヒストアクリルを用いて塞栓するものである。これにより、消化管から漏れていたリンパ液を止血している。			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
1	球脊髄性筋萎縮症	5	56	クッシング病	5
2	筋萎縮性側索硬化症	31	57	下垂体性成長ホルモン分泌亢進症	17
3	脊髄性筋萎縮症	2	58	下垂体前葉機能低下症	44
4	進行性核上性麻痺	10	59	サルコイドーシス	38
5	パーキンソン病	90	60	特発性間質性肺炎	20
6	大脳皮質基底核変性症	5	61	肺動脈性肺高血圧症	1
7	シャルコー・マリー・トウス病	2	62	慢性血栓栓性肺高血圧症	4
8	重症筋無力症	123	63	リンパ脈管筋腫症	1
9	多発性硬化症／視神経脊髄炎	72	64	網膜色素変性症	26
10	慢性炎症性脱髄性多発神経炎／多巣性運動ニューロパチー	47	65	バッド・キアリ症候群	2
11	封入体筋炎	3	66	特発性門脈圧亢進症	1
12	多系統萎縮症	9	67	原発性胆汁性肝硬変	43
13	脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く。)	23	68	原発性硬化性胆管炎	14
14	ライソゾーム病	4	69	自己免疫性肝炎	22
15	副腎白質ジストロフィー	1	70	クローン病	106
16	ミトコンドリア病	6	71	潰瘍性大腸炎	197
17	もやもや病	29	72	好酸球性消化管疾患	3
18	HTLV-1関連脊髄症	1	73	全身型若年性特発性関節炎	1
19	全身性アミロイドーシス	6	74	先天性ミオパチー	2
20	遠位型ミオパチー	1	75	筋ジストロフィー	11
21	神経線維腫症	10	76	アイザックス症候群	1
22	天疱瘡	10	77	前頭側頭葉変性症	1
23	膿疱性乾癬(汎発型)	30	78	限局性皮膚異形成	1
24	高安動脈炎	10	79	ミオクローニ脱力発作を伴うてんかん	1
25	巨細胞性動脈炎	7	80	類天疱瘡(後天性表皮水疱症を含む。)	9
26	結節性多発動脈炎	10	81	マルファン症候群	2
27	顕微鏡的多発血管炎	30	82	ウィルソン病	4
28	多発血管炎性肉芽腫症	15	83	無脾症候群	1
29	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	29	84	ブラダー・ウィリ症候群	1
30	悪性関節リウマチ	9	85	急速進行性糸球体腎炎	4
31	バージャー病	2	86	一次性ネフローゼ症候群	60
32	原発性抗リン脂質抗体症候群	4	87	一次性膜性増殖性糸球体腎炎	1
33	全身性エリテマトーデス	233	88	紫斑病性腎炎	1
34	皮膚筋炎／多発性筋炎	76	89	間質性膀胱炎(ハンナ型)	1
35	全身性強皮症	59	90	オスラー病	1
36	混合性結合組織病	22	91	副甲状腺機能低下症	1
37	シェーグレン症候群	33	92	タンジール病	1
38	成人スチル病	18	93	脳腫黄色腫症	1
39	再発性多発軟骨炎	4	94	脂肪萎縮症	1
40	ベーチェット病	171	95	家族性地中海熱	1
41	特発性拡張型心筋症	19	96	強直性脊椎炎	9
42	肥大型心筋症	6	97	クリッペル・トレノネー・ウェーバー症候群	1
43	再生不良性貧血	24	98	後天性赤芽球癆	1
44	自己免疫性溶血性貧血	4	99	IgG4関連疾患	9
45	発作性夜間ヘモグロビン尿症	3	100	好酸球性副鼻腔炎	22
46	特発性血小板減少性紫斑病	57	101	特発性多中心性キャスルマン病	1
47	原発性免疫不全症候群	7	102		
48	IgA腎症	17	103		
49	多発性嚢胞腎	19	104		
50	黄色靭帯骨化症	6	105		
51	後縦靭帯骨化症	28	106		
52	広範脊柱管狭窄症	1	107		
53	特発性大腿骨頭壊死症	16	108		
54	下垂体性ADH分泌異常症	11	109		
55	下垂体性PRL分泌亢進症	5	110		

(注)「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

●基本診療料の施設基準

- ・特定機能病院入院基本料（一般：7対1、精神：13対1）
- ・臨床研修病院入院診療加算
- ・救急医療管理加算
- ・超急性期脳卒中加算
- ・妊産婦緊急搬送入院加算
- ・診療録管理体制加算1
- ・医師事務作業補助体制加算1（40対1）
- ・急性期看護補助体制加算（25対1 看護補助者5割未満）
- ・看護職員夜間配置加算（12対1配置加算2）
- ・療養環境加算
- ・重症者等療養環境特別加算
- ・無菌治療室管理加算1・2
- ・緩和ケア診療加算
- ・精神科身体合併症管理加算
- ・精神科リエゾンチーム加算
- ・がん診療連携拠点病院加算
- ・栄養サポートチーム加算
- ・医療安全対策加算1
- ・感染防止対策加算1
- ・患者サポート体制充実加算
- ・褥瘡ハイリスク患者ケア加算
- ・ハイリスク妊娠管理加算
- ・ハイリスク分娩管理加算
- ・後発医薬品使用体制加算1
- ・病棟薬剤業務実施加算1・2
- ・データ提出加算2のイ
- ・入退院支援加算1
- ・精神疾患診療体制加算
- ・精神科急性期医師配置加算2のイ
- ・地域医療体制確保加算
- ・救命救急入院料1・4
- ・特定集中治療室管理料3・4
- ・総合周産期特定集中治療室管理料
- ・新生児治療回復室入院医療管理料
- ・小児入院医療管理料1
- ・地域歯科診療支援病院歯科初診料
- ・歯科外来診療環境体制加算2

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・ 別紙 4 参照	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・

●特掲診療料の施設基準

- ・外来栄養食事指導料の注 2 に規定する施設基準
- ・心臓ペースメーカー指導管理料（植込型除細動器移行期加算）
- ・心臓ペースメーカー指導管理料（注 5 に規定する遠隔モニタリング加算）
- ・高度難聴指導管理料
- ・慢性維持透析患者外来医学管理料の腎代替療法実績加算
- ・糖尿病合併症管理料
- ・がん性疼痛緩和指導管理料
- ・がん患者指導管理料イ・ロ・ハ・ニ
- ・外来緩和ケア管理料
- ・移植後患者指導管理料（造血幹細胞移植後）
- ・糖尿病透析予防指導管理料
- ・乳腺炎重症化予防ケア・指導料
- ・婦人科特定疾患治療管理料
- ・腎代替療法指導管理料
- ・院内トリアージ実施料
- ・外来放射線照射診療料
- ・ニコチン依存症管理料
- ・がん治療連携計画策定料
- ・がん治療連携管理料 1
- ・肝炎インターフェロン治療計画料
- ・薬剤管理指導料
- ・医療機器安全管理料 1・2・(歯科)
- ・歯科疾患管理料の注 11 に規定する総合医療管理加算及び歯科治療時医療管理料
- ・在宅持続陽圧呼吸療法指導管理料 遠隔モニタリング加算
- ・造血器腫瘍遺伝子検査
- ・持続血糖測定器加算（間歇注入シリンジポンプと連動する持続血糖測定器を用いる場合）及び皮下連続式グルコース測定
- ・持続血糖測定器加算（間歇注入シリンジポンプと連動しない持続血糖測定器を用いる場合）
- ・遺伝学的検査
- ・骨髄微小残存病変量測定
- ・BRCA 1 / 2 遺伝子検査（血液を検体とするもの）
- ・がんゲノムプロファイリング検査
- ・先天性代謝異常症検査
- ・HPV 核酸検出及び HPV 核酸検出（簡易ジェノタイプ判定）
- ・検体検査管理加算（Ⅰ）・(Ⅳ)
- ・国際標準検査管理加算

- ・ 遺伝カウンセリング加算
- ・ 植込型心電図検査
- ・ 時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト
- ・ 胎児心エコー法
- ・ ヘッドアップティルト試験
- ・ 単繊維筋電図
- ・ 脳波検査判断料 1
- ・ 神経学的検査
- ・ 補聴器適合検査
- ・ 黄斑局所網膜電図及び全視野精密網膜電図
- ・ ロービジョン検査判断料
- ・ 小児食物アレルギー負荷検査
- ・ 内服・点滴誘発試験
- ・ センチネルリンパ節生検（片側）
- ・ 画像診断管理加算 1・2
- ・ ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影
- ・ CT 撮影及び MRI 撮影
- ・ 冠動脈 CT 撮影加算
- ・ 血流予備量比コンピューター断層撮影
- ・ 外傷全身 CT 加算
- ・ 大腸 CT 撮影加算
- ・ 心臓 MRI 撮影加算
- ・ 乳房 MRI 撮影加算
- ・ 抗悪性腫瘍剤処方管理加算
- ・ 外来化学療法加算 1
- ・ 連携充実加算
- ・ 無菌製剤処理料
- ・ 心大血管疾患リハビリテーション料（Ⅰ）
- ・ 脳血管疾患等リハビリテーション料（Ⅰ）
- ・ 廃用症候群リハビリテーション料（Ⅰ）
- ・ 運動器リハビリテーション料（Ⅰ）
- ・ 呼吸器リハビリテーション料（Ⅰ）
- ・ がん患者リハビリテーション料
- ・ 歯科口腔リハビリテーション料 2
- ・ 精神科ショート・ケア「大規模なもの」
- ・ 精神科デイ・ケア「大規模なもの」
- ・ 抗精神病特定薬剤治療指導管理料（治療抵抗性統合失調症治療指導管理料に限る。）
- ・ 医療保護入院等診療料
- ・ エタノールの局所注入（甲状腺）
- ・ 人工腎臓（慢性維持透析を行った場合 1）

- ・導入期加算 2
- ・透析液水質確保加算及び慢性維持透析濾過加算
- ・磁器による膀胱等刺激法
- ・一酸化窒素吸入療法（新生児の低酸素呼吸不全に対して実施するものに限る。）
- ・口腔粘膜処置
- ・CAD/CAM 冠
- ・口腔粘膜処置
- ・皮膚悪性腫瘍切除術（センチネルリンパ節加算を算定する場合に限る。）
- ・皮膚移植術（死体）
- ・組織拡張器による再建手術（一連につき）（乳房（再建手術）の場合に限る。）
- ・四肢・軀体軟部悪性腫瘍手術及び骨悪性腫瘍手術の注に規定する処理骨再建加算
- ・骨移植術（軟骨移植術含む。）（自家培養軟骨移植術に限る。）
- ・後縦靭帯骨化症手術（前方進入によるもの）
- ・椎間板内酵素注入療法
- ・脳刺激装置植込術及び脳刺激装置交換術
- ・脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術
- ・仙骨神経刺激装置植込術及び仙骨神経刺激装置交換術（便失禁）
- ・角膜移植術（内皮移植加算）
- ・羊膜移植術
- ・緑内障手術（緑内障治療用インプラント挿入術（プレートのあるもの））
- ・緑内障手術（水晶体再建術併用眼内ドレーン挿入術）
- ・網膜附着組織を含む硝子体切除術（眼内内視鏡を用いるもの）
- ・網膜再建術
- ・人工中耳植込術、人工内耳植込術、植込型骨導補聴器移植術及び植込型骨導補聴器交換術
- ・上顎骨形成術（骨移動を伴う場合に限る。）（歯科診療に係るものに限る。）、下顎骨形成術（骨移動を伴う場合に限る。）（歯科診療に係るものに限る。）
- ・乳腺悪性腫瘍手術（乳がんセンチネルリンパ節加算 1 又は乳がんセンチネルリンパ節加算 2 を算定する場合に限る。）
- ・乳腺悪性腫瘍手術（乳輪温存乳房切除術（腋窩郭清を伴わないもの）及び乳輪温存乳房切除術（腋窩郭清を伴うもの））
- ・ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術（乳房切除後）
- ・胸腔鏡下拡大胸腺摘出術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）
- ・胸腔鏡下縦隔悪性腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）、胸腔鏡下良性縦隔腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）
- ・肺悪性腫瘍手術（壁側・臓側胸膜全切除（横隔膜、心膜合併切除を伴うもの）に限る。）
- ・胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術（区域切除及び肺葉切除又は 1 肺葉を超えるものに限る。）（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）
- ・食道縫合術（穿孔、損傷）（内視鏡によるもの）、内視鏡下胃、十二指腸穿孔瘻孔閉鎖術、胃瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）、小腸瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）、結腸瘻閉

鎖術（内視鏡によるもの）、腎（腎盂）腸瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）、尿管腸瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）、膀胱腸瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）、脘腸瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）

- ・経皮的冠動脈形成術
- ・経皮的冠動脈形成術（特殊カテーテルによるもの）
- ・経皮的冠動脈ステント留置術
- ・胸腔鏡下弁形成術及び胸腔鏡下弁置換術
- ・胸腔鏡下弁形成術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）
- ・経カテーテル大動脈弁置換術
- ・経皮的僧帽弁クリップ術
- ・不整脈手術（左心耳閉鎖術（経カテーテル的手術によるもの）に限る。）
- ・経皮的中隔心筋焼灼術
- ・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術、ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術（リードレスペースメーカー）
- ・植込型心電図記録計移植術及び植込型心電図記録計摘出術
- ・両心室ペースメーカー移植術（経静脈電極の場合）及び両心室ペースメーカー交換術（経静脈電極の場合）
- ・植込型除細動器移植術（経静脈リードを用いるもの又は皮下植込型リードを用いるもの）、植込型除細動器交換術（その他のもの）及び経静脈電極抜去術
- ・両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術（経静脈電極の場合）及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術（経静脈電極の場合）
- ・大動脈バルーンパンピング法（IABP法）
- ・経皮的循環補助法（ポンプカテーテルを用いたもの）
- ・補助人工心臓
- ・経皮的大動脈遮断術
- ・腹腔鏡下リンパ節群郭清術（後腹膜）
- ・腹腔鏡下リンパ節群郭清術（傍大動脈）
- ・ダメージコントロール手術
- ・腹膜鏡下十二指腸局所切除術（内視鏡処置を併設するもの）
- ・腹腔鏡下胃切除術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）
- ・腹腔鏡下噴門側胃切除術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）
- ・バルーン閉塞下逆行性経静脈的塞栓術
- ・胆管悪性腫瘍手術（膵頭十二指腸切除及び肝切除（葉以上）を伴うものに限る。）
- ・体外衝撃波胆石破砕術
- ・腹腔鏡下肝切除術（部分切除及び外側区域切除）、（亜区域切除、1区域切除（外側区域切除を除く。）、2区域切除及び3区域切除以上のもの）
- ・体外衝撃波膵石破砕術（一連につき）
- ・腹腔鏡下膵腫瘍摘出術及び腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術
- ・腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）
- ・腹腔鏡下膵頭部腫瘍切除術

- ・腹腔鏡下膵頭部腫瘍切除術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）
- ・早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
- ・腹腔鏡下直腸切除・切断術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）
- ・体外衝撃波腎・尿管結石破碎術
- ・腎腫瘍凝固・焼灼術（冷凍凝固によるもの）
- ・腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いるもの）
- ・腹腔鏡下腎盂形成手術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）
- ・生体腎移植術
- ・膀胱水圧拡張術
- ・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術、腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）
- ・人工尿道括約筋植込・置換術
- ・腹腔鏡下小切開前立腺悪性腫瘍手術
- ・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いるもの）
- ・腹腔鏡下腔式子宮全摘術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）
- ・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術（子宮体がんに限る。）
- ・胎児胸腔・羊水腔シャント術（一連につき）
- ・医科点数表第 2 章第 10 部手術の通則 5 及び 6（歯科点数表第 2 章第 9 部の通則 4 を含む。）に掲げる手術
- ・医科点数表第 2 章第 10 部手術の通則の 16 に掲げる手術
- ・医科点数表第 2 章第 10 部手術の通則の 19 に掲げる手術（遺伝性乳癌卵巣癌症候群患者に対する乳房切除術に限る。）
- ・医科点数表第 2 章第 10 部手術の通則の 19 に掲げる手術（遺伝性乳癌卵巣癌症候群患者に対する子宮附属器腫瘍摘出術）
- ・輸血管理料 I
- ・輸血適正使用加算
- ・貯血式自己血輸血管理体制加算
- ・自己生体組織接着剤作成術
- ・自己クリオプレシピテート作製術（用手法）及び同種クリオプレシピテート作製術
- ・人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算
- ・胃瘻造設時嚥下機能評価加算
- ・歯周組織再生誘導手術
- ・広範囲顎骨支持型装置埋入手術
- ・レーザー機器加算
- ・麻酔管理料（I）・（II）
- ・放射線治療専任加算
- ・外来放射線治療加算
- ・高エネルギー放射線治療
- ・1 回線量増加加算（全乳房照射・前立腺照射）
- ・強度変調放射線治療（IMRT）

- ・画像誘導放射線治療加算
- ・体外照射呼吸性移動対策加算
- ・定位放射線治療
- ・定位放射線治療呼吸性移動対策加算（体外照射呼吸性移動対策加算・定位放射線治療・その他のもの）
- ・画像誘導密封小線源治療加算
- ・病理診断管理加算 2
- ・悪性腫瘍病理組織標本加算
- ・口腔病理診断管理加算 2
- ・クラウン・ブリッジ維持管理料

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
				補委	元
別紙 5 参照				補委	
				補委	

計

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

高度の医療技術の開発及び評価の実績

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
糖・脂質・アミノ酸の栄養素の臓器間代謝調節機構の解明と応用法の探索	宇野健司	内科学講座	¥4,160,000	補・委 文部科学省
肝臓のオートファジー・リソソーム経路由来の臓器間栄養代謝制御機構の解明	宇野健司	内科学講座	¥1,000,000	補・委 大和証券ヘルス財団
栄養素代謝を制御するリソソーム経路由来の臓器連関機構の解明	宇野健司	内科学講座	¥2,000,000	補・委 テルモ生命科学振興財団
肝臓における代謝領域選択性の制御機構と臓器連携を司る分子機序の解明	宇野健司	内科学講座	¥9,700,000	補・委 武田科学振興財団
痛風における動脈硬化促進の分子機序の解明	河野肇	内科学講座	¥1,716,000	補・委 文部科学省
エクソソームによる甲状腺濾胞癌診断システムの開発	盛田幸司	内科学講座	¥1,300,000	補・委 文部科学省
ゲノミクスを用いた感染性心内膜炎の新規診断法の検討	片岡明久	内科学講座	¥1,300,000	補・委 文部科学省
オートファジー制御分子による核内受容体の新規調節メカニズムの全容解明	柴田茂	内科学講座	¥1,300,000	補・委 文部科学省
急性骨髄性白血病に対するCLL-1特異的キメラ抗原受容体T細胞療法の改良	田代晴子	内科学講座	¥1,430,000	補・委 文部科学省
肺線維化におけるIL-9の機能の解明	杉本直也	内科学講座	¥2,730,000	補・委 文部科学省
HIV感染者におけるサルコペニアの成因とその機序の解明	若林義賢	内科学講座	¥2,470,000	補・委 文部科学省
翻訳後修飾による新規膜輸送体制御系を基軸とした腎疾患の基盤病態解明と応用の探求	柴田茂	内科学講座	¥3,380,000	補・委 文部科学省
ナノバイオテクノロジーを用いた糖尿病性腎症に対する新規治療法の開発	広浜大五郎	内科学講座	¥1,300,000	補・委 文部科学省
難治性の肝・胆道疾患に関する調査研究	田中 篤	内科学講座	¥17,160,000	補・委 厚生労働省
原発性高脂血症に関する調査研究	塚本 和久	内科学講座	¥150,000	補・委 厚生労働省
ベーチェット病に関する調査研究	菊地 弘敏	内科学講座	¥300,000	補・委 厚生労働省

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
難治性血管円の医療水準・患者QOL向上に資する研究	河野 肇	内科学講座	¥866,000	補・委	厚生労働省
小児期・移行期を含む包括的対応を要する希少難治性肝胆膵疾患の調査研究	田中 篤	内科学講座	¥500,000	補・委	厚生労働省
IgG4関連疾患の診断基準並びに診療指針の確立を目指す研究	田中 篤	内科学講座	¥500,000	補・委	厚生労働省
原発性胆汁性胆管炎に対する抗線維化治療薬の開発	田中 篤	内科学講座	¥650,000	補・委	国立研究開発法人 日本医療研究開発 機構 (AMED)
新型コロナウイルス感染症に対する Nafamostat, Favipiravir 併用特定臨床研究	長瀬 洋之	内科学講座	¥1,000,000	補・委	厚生労働省
サリドマイド胎芽症患者の健康、生活実態の把握及び支援基盤の構築	長瀬 洋之	内科学講座	¥1,500,000	補・委	厚生労働省
表現型別のぜん息増悪因子の同定と長期予後の解析- 非2型炎症を有するぜん息病態の検討を含めて-	長瀬 洋之	内科学講座	¥5,356,389	補・委	独立行政法人 環境再生保全機 構
ベーチェット病に関する調査研究	廣畑 俊成	内科学講座	¥300,000	補・委	厚生労働省
がん検診における 'Shared Decision Making' 推進と利益不利益バランスに基づく受診意思決定支援ツール開発のための研究	渡邊 清高	内科学講座	¥500,000	補・委	厚生労働省
エクソソームを用いた2型糖尿病の病態・治療効果予測に有用な新規マーカーの探索	江戸直樹	内科学講座	¥1,300,000	補・委	文部科学省
HIV感染者における性腺機能低下の実態及び長期合併症との関連について	吉野友祐	内科学講座	¥1,000,000	補・委	文部科学省
Engineered IL-7 receptor 共発現 C-type lectin-like molecule 1 特異的 CAR-T細胞のヒト造血幹細胞に与える毒性の検討	田代晴子	内科学講座	¥500,000	補・委	日本血液学会研 究助成委員会
手指動作における時空間ダイナミクスの特徴抽出と臨床応用	小林俊輔	神経内科学 講座	¥7,020,000	補・委	文部科学省
カルシウムホメオスタシスの制御に基づく筋ジストロフィーに対する新たな治療法の開発	松村喜一郎	神経内科学 講座	¥1,430,000	補・委	文部科学省
筋萎縮性側索硬化症の早期診断における感度特異度の高い電気生理学的診断基準の作成	園生雅弘	神経内科学 講座	¥1,690,000	補・委	文部科学省
神経免疫疾患のエビデンスによる診断基準・重症度分類・ガイドラインの妥当性と患者QOLの検証	園生 雅弘	神経内科学講座	¥400,000	補・委	厚生労働省
先進的ゲノム編集技術を用いた難治性神経筋疾患に対する治療戦略	斉藤史明	神経内科学 講座	¥1,300,000	補・委	文部科学省

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
針筋電図検査における動員パターンの新規定量プログラム作成	神林隆道	神経内科学講座	¥0	補・委 文部科学省
新規デバイスによる肺癌患者の血液中循環腫瘍細胞の同定	坂尾幸則	外科学講座	¥0	補・委 文部科学省
胃癌の血漿microRNAとtumor-free DNAによる癌早期診断法	福島亮治	外科学講座	¥0	補・委 文部科学省
大腸癌の腸内細菌叢メタゲノム解析とリキッドバイオプシーによる癌個別化診断	橋口陽二郎	外科学講座	¥0	補・委 文部科学省
学会連携を通じた希少癌の適切な医療の質向上と次世代を担う希少がん領域の人材育成に資する研究	橋口 陽二郎	外科学講座	¥300,000	補・委 厚生労働省
メタボローム解析を用いた乳癌化学療法の効果予測法の確立	神野浩光	外科学講座	¥1,430,000	補・委 文部科学省
地域医療構想の実現のためのNCDの利活用についての政策研究	神野 浩光	外科学講座	¥0	補・委 厚生労働省
全国がん登録の利活用に向けた学会研究体制の整備とその試行、臨床データベースに基づく臨床研究の推進、及び国民への研究情報提供の在り方に関する研究	神野 浩光	外科学講座	¥0	補・委 厚生労働省
乳癌術前薬物療法における血漿エクソソーム由来microRNAの有用性の検討	松本暁子	外科学講座	¥1,040,000	補・委 文部科学省
免疫チェックポイント阻害薬併用凍結療法の腫瘍免疫変調効果の検討	山内良兼	外科学講座	¥1,170,000	補・委 文部科学省
人工知能を用いた直腸癌における術前化学放射線療法の効果予測	小澤毅士	外科学講座	¥780,000	補・委 文部科学省
自律再生軟骨による気管支断端の創傷治癒システムの開発	横手芙美	外科学講座	¥1,430,000	補・委 文部科学省
下垂体腺腫における血管新生関連遺伝子発現の検討とその制御による増殖抑制	松野彰	脳神経外科学講座	¥1,170,000	補・委 文部科学省
間脳下垂体機能障害に関する調査研究	松野 彰	脳神経外科学講座	¥200,000	補・委 厚生労働省
エクソソームを利用した下垂体腺腫でのソマトスタチン受容体発現の評価システムの開発	大山健一	脳神経外科学講座	¥1,690,000	補・委 文部科学省
トロンボモジュリン構成ドメインによる抗凝固能・抗炎症作用の解明	池田司	心臓血管外科学講座	¥1,040,000	補・委 文部科学省
抗CD80/86抗体により誘導される免疫寛容維持機序の解析	内山雅照	心臓血管外科学講座	¥1,430,000	補・委 文部科学省

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
抗体関連型拒絶反応に対する抗BTLA抗体と抗PD-1抗体併用療法の確立	内山雅照	心臓血管外科学講座	¥2,210,000	③・委 科学研究費(基盤研究C)
トップアスリートの競技復帰を加速するための高気圧酸素治療指針の確立	安井洋一	整形外科科学講座	¥1,170,000	③・委 文部科学省
MRSA骨感染症の克服を目指したテジゾリド最適化投与法の構築	安井洋一	整形外科科学講座	¥4,160,000	③・委 日本学術振興会
感染・偽関節の阻止を目指した革新的な骨折治療法に関する基礎的検討	日高亮	整形外科科学講座	¥910,000	③・委 文部科学省
MPIによる動作解析を用いたインソールの有効性と安全性に関する研究	宮本亘	整形外科科学講座	¥1,430,000	③・委 文部科学省
育成年代投手における投球数が肩甲骨位置と投球動作に与える影響の解明	塚田 圭輔	整形外科科学講座	¥3,200,000	③・委 日本学術振興会
投球数が肩甲骨高位と投球動作に与える影響を明らかにする	塚田 圭輔	整形外科科学講座	¥500,000	③・委 日本整形外科学会 研究助成事業
Ulnar nerve dislocation and subluxation from the cubital tunnel are not rare in college athletes.	塚田 圭輔	整形外科科学講座	¥300,000	③・委 精密測定技術振興財団 「精密測定技術研究に関する国際交流等促進事業」
超音波画像を用いた尺骨神経の動的評価ー小児上腕骨顆上骨折手術に伴う医原性神経損傷を回避するための基盤研究ー	塚田 圭輔	整形外科科学講座	¥500,000	③・委 整形災害外科学 研究助成財団
高校生投手の投球による肩・肘関節傷害防止策の確立:投球数が肩甲骨高位と投球動作に与える影響を明らかにする	塚田 圭輔	整形外科科学講座	¥1,500,000	③・委 中富健康科学振興財団 第33回 研究助成
水溶性・脂溶性に着目したスタチン系薬剤の細胞腫瘍での細胞障害作用の検討	張京浩	麻酔科学講座	¥0	③・委 文部科学省
術中心停止に対する迅速かつ安全な心肺蘇生法の確立:実地シミュレーションによる検討	小西康貴	麻酔科学講座	¥1,170,000	③・委 文部科学省
「データ包絡分析法を活用した個別化予防医療の開発」	中田 善規	麻酔科学講座	¥3,700,000	③・委 文部科学省科学 研究費補助金
アブスコパル効果のメカニズム解明ー腫瘍免疫に基づく画期的腫瘍治療戦略ー	白石憲史郎	放射線科学講座	¥5,210,000	③・委 文部科学省
IVR医の水晶体被ばくの実態調査~防護グラスに固定した小線量計での長期間実測~	近藤浩史	放射線科学講座	¥780,000	③・委 文部科学省
難治性リンパ漏に対する胸管内リンパ液自動誘導システムの開発	山本真由	放射線科学講座	¥1,690,000	③・委 文部科学省
低線量X線透視動画を用いた肺換気・血流イメージングシステムの開発	山本浩太郎	放射線科学講座	¥1,170,000	③・委 文部科学省

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
単一細胞解析による婦人科がん幹細胞ニッチの解明と新規治療法の開発	長阪一憲	産婦人科学講座	¥1,300,000	補・委	文部科学省
マイクロ流体と集積回路技術によるリキッドバイオプラットフォーム開発	長阪一憲	産婦人科学講座	¥17,550	補・委	科研費助成事業
情報通信技術を活用した子宮頸がん予防のヘルスリテラシー向上に関する研究	長阪一憲	産婦人科学講座	¥6,110	補・委	科研費助成事業
マイクロ流体アプローチによる1細胞とランスクリプトーム解析とその応用展開	長阪一憲	産婦人科学講座	¥177,580	補・委	科研費助成事業
卵巣明細胞腺癌の化学療法低感受性の改善へ向けて	菊池(小池)良子	産婦人科学講座	¥0	補・委	文部科学省
“Deep Safety”(真の医療安全)実現に向けた法政策:医療安全における「法との断絶」の克服を目指す比較研究	木戸 浩一郎	産婦人科学講座	¥320,000	補・委	厚生労働省
脆弱性骨折患者に対する至適包括的管理の基盤確立のための臨床コホート研究	緒方直史	リハビリテーション科	¥0	補・委	文部科学省
がん患者に対する運動器至適包括管理の基盤確立を間座下臨床研究	緒方直史	リハビリテーション科	¥4,030,000	補・委	科研費基盤C
没入型VRを応用した新規リハビリテーションシステム開発と有用性の包括的研究	中原康雄	リハビリテーション科	¥1,560,000	補・委	文部科学省
大気中粒子による眼アレルギー疾患の疫学調査と実験的手法による原因究明と治療法開発	三村達哉	眼科学講座	¥6,370,000	補・委	文部科学省
1日使い捨てシリコーンハイドロゲルコンタクトレンズ(プレジジョンワン®)の初装時における快適さに関する評価	三村達哉	眼科学講座	¥3,370,941	補・委	日本Alcon 医師主導研究プログラム
2種類の1日使い捨てシリコーンハイドロゲルコンタクトレンズの臨床評価	三村達哉	眼科学講座	¥8,559,176	補・委	日本Alcon 医師主導研究プログラム
患者個別バーチャルリアリティと拡張現実を複合した腹部外傷外科シミュレーター構築	伊藤香	救急医学講座	¥1,040,000	補・委	文部科学省
エビデンスに基づく熱中症の診療指針の確立に向けての疫学調査と分析	神田潤	救急医学講座	¥1,040,000	補・委	文部科学省
市民によるAED等の一次救命処置のさらなる普及と検証体制構築の促進及び二次救命処置の適切な普及に向けた研究	坂本 哲也	救急医学講座	¥5,499,000	補・委	厚生労働省
2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会における救急・災害医療提供体制に関する研究	坂本 哲也	救急医学講座	¥450,000	補・委	厚生労働省
『新しい生活様式』に即した熱中症の診断・予防・治療法の確立のための研究	神田 潤	救急医学講座	¥2,000,000	補・委	厚生労働省

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
地域医療構想を見据えた救急医療提供体制の	坂本 哲也	救急医学講座	¥200,000	補・委	厚生労働省
脳死下、心停止後の臓器・組織提供における効率的な連携体制の構築に資する研究	三宅 康史	救急医学講座	¥1,500,000	補・委	厚生労働省
コロナ禍における脳死下・心停止下臓器提供経験施設の実態調査に基づく新たな臓器提供体制構築に資する研究(20CA2066)	安心院 康彦	救急医学講座	¥0	補・委	厚生労働省
交通事故の人体傷害の発生メカニズムの解明と被害軽減対策に関する調査研究	藤田 尚	救急医学講座	¥1,300,000	補・委	(公財)交通事故総合分析センター
吸引脂肪組織の酸素化による生着率の高い新規脂肪注入移植法の開発	堂後京子 (佐々木京子)	形成・口腔顎顔面外科学講座	¥1,560,000	補・委	文部科学省
in vivo遺伝子導入による軟骨再生医療への展開	山岡尚世	形成・口腔顎顔面外科学講座	¥1,430,000	補・委	文部科学省
全国調査による一側性聴覚障害者の実態把握及び診断・治療指針の作成に関する研究	伊藤 健	耳鼻咽喉科学講座	¥400,000	補・委	AMED
好酸球性副鼻腔炎に伴う神経性嗅覚障害の病態生理の解明	籠谷領二	耳鼻咽喉科学講座	¥1,170,000	補・委	文部科学省
鼻過敏症の病態生理におけるTRPM8の役割についての解析	清水裕也	耳鼻咽喉科学講座	¥1,300,000	補・委	文部科学省
小児特発性ネフローゼ症候群の病態解明:発症機序における自己抗体の役割	高橋和浩	小児科学講座	¥650,000	補・委	文部科学省
ミトコンドリア病、レット症候群の調査研究	三牧 正和	小児科学講座	¥500,000	補・委	厚生労働省
脳脊髄液減少症の病態生理と診断法の開発	三牧 正和	小児科学講座	¥300,000	補・委	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構
多様なミトコンドリア病の遺伝子型/表現型/自然歴等をガイドラインに反映させていくエビデンス創出研究	三牧 正和	小児科学講座	¥1,300,000	補・委	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構
大規模災害時におけるアレルギー疾患患者の問題の把握とその解決に向けた研究	小林 茂俊	小児科学講座	¥10,010,000	補・委	厚生労働省
妊婦・授乳婦における医薬品の安全性に関する情報提供の在り方の研究	伊藤 直樹	小児科学講座	¥100,000	補・委	厚生労働省
トリプトファンバランスに着目した食事による胎児成長支援戦略の構築.	伊藤 直樹	小児科学講座	¥200,000	補・委	文部省科学研究費助成事業
N-S結合及びN-N結合における立体科学の解明と機能性分子創出への応用	佐藤恭弘	小児科学講座	¥146,088	補・委	文部省科学研究費助成事業

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
セルフモニタリングと援助希求に着目した、こころの健康教育プログラム作成と効果検証	金田 渉	精神神経科学講座	¥1,430,000	補・委 文部科学省
うつ病のグリア抗うつ薬受容体(LPA1)を基盤とした創薬・バイオマーカー研究	功刀 浩	精神神経科学講座	¥200,000	補・委 日本学術振興会
新規ROR γ 転写共役因子を標的とした去勢抵抗性前立腺癌免疫療法の開発	高橋 さゆり	泌尿器科学講座	¥1,300,000	補・委 文部科学省
乾癬治療における光線療法、ホスホジエステラーゼ4阻害薬内服の相乗効果の機序の解明	鎌田 昌洋	皮膚科学講座	¥1,430,000	補・委 文部科学省
乾癬モデルマウスにおける表皮resident memory T cellの解析	多田 弥生	皮膚科学講座	¥2,210,000	補・委 文部科学省
胆道癌浸潤病巣における線維性間質の病態と、抗線維化治療への展開	羽賀 敏博	病院病理部	¥1,560,000	補・委 文部科学省

計107件

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1		別紙 6 参照			Original Article
2					Case report
3					Review
4					Letter
5					Others
6					
～					
70					
～					

計 件

(注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。

2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る。)

3 「発表者氏名」に関しては、英文で、筆頭著者を先頭に論文に記載された順に3名までを記載し、それ以上は、他、またはet al.とする。

4 「筆頭著者の所属」については、和文で、筆頭著者の特定機能病院における所属を記載すること。

5 「雑誌名・出版年月等」欄には、「雑誌名. 出版年月(原則雑誌掲載月とし、Epub ahead of printやin pressの掲載月は認めない); 巻数: 該当ページ」の形式で記載すること
(出版がオンラインのみの場合は雑誌名、出版年月(オンライン掲載月)の後に(オンライン)と明記すること)。

記載例: Lancet. 2015 Dec; 386: 2367-9 / Lancet. 2015 Dec (オンライン)

6 「論文種別」欄には、Original Article、Case report、Review、Letter、Othersから一つ選択すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1					Original Article
2					Case report
3					
～					

計 件

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 記載方法は、前項の「高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文」の記載方法に準じること。

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

論文発表等の実績

高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

1	Abe K., Yamamoto T. & Matsumoto K. et.al	内科学講座	Clinical features and liver injury in patients with COVID-19 in the Japanese population	Internal Medicine.2020 Oct;59(19):2353-2358	Original Article
2	Hioki H., Watanabe Y. & Kataoka A. et.al	内科学講座	4-Dimensional Computed Tomography Detects Early Leaflet Calcification 3 Years After Transcatheter Aortic Valve Replacement	JACC: Cardiovascular Interventions.2021 Jan;14(2):e17-e20	Original Article
3	Hioki H., Watanabe Y. & Kozuma K. et.al	内科学講座	Short-term dual anti-platelet therapy decreases long-term cardiovascular mortality after transcatheter aortic valve replacement	Heart and Vessels.2021 Feb;36(2):252-259	Original Article
4	Ishihara M., Ochiai R. & Haruyama T. et.al	内科学講座	Pretreatment neutrophil-to-lymphocyte ratio predicts treatment efficacy and prognosis of cytotoxic anticancer drugs, molecular targeted drugs, and immune checkpoint inhibitors in patients with advanced non-small cell lung cancer	Translational Lung Cancer Research.2021 Jan;10(1):221-232	Original Article
5	Kataoka A., Chikuda I. & Mitsui M. et.al	内科学講座	Hypoplasia of the posterior mitral leaflet accurately diagnosed by 3D transoesophageal echocardiography	European Heart Journal Cardiovascular Imaging.2020 Jul;21(7):818	Note
6	Kataoka A.	内科学講座	Gender and positional disparities between echocardiologists and operators in MitraClip heart teams in Japan	Journal of Echocardiography.2021 Mar;19(1):65-66	Letter
7	Katayama T., Hioki H. & Kyono H. et.al	内科学講座	Predictive value of the geriatric nutritional risk index in percutaneous coronary intervention with rotational atherectomy	Heart and Vessels.2020 Jul;35(7):887-893	Original Article
8	Kikuyama T., Susa T. & Tamamori-Adachi M. et.al	内科学講座	25(OH)D3 stimulates the expression of vitamin D target genes in renal tubular cells when Cyp27b1 is abrogated	Journal of Steroid Biochemistry and Molecular Biology.2020 May;199():	Original Article
9	Kitazawa T., Yoshino Y. & Asako K. et.al	内科学講座	Recent increase in non-tuberculous mycobacterial infection in patients with connective tissue diseases in Japan	Journal of Infection and Chemotherapy.2020 Sep;26(9):941-945	Original Article
10	Kitazawa T., Yamamoto A. & Nakayama S. et.al	内科学講座	Prosthetic valve endocarditis diagnosed because of persistent hemolytic anemia after salmonella iliopsoas abscess treatment: A case report and literature review	Infectious Diseases in Clinical Practice.2020 Nov;28(6):318-323	Review
11	Kozuma K., Tanabe K. & Hamazaki Y. et.al	内科学講座	Long-term outcomes of absorb bioresorbable vascular scaffold vs. Everolimus-eluting metallic stent — a randomized comparison through 5 years in Japan —	Circulation Journal.2020 Apr;84(5):733-741	Original Article
12	Kozuma K., Kinoshita Y. & Hioki H. et.al	内科学講座	1-year safety of 3-month dual antiplatelet therapy followed by aspirin or P2Y12 receptor inhibitor monotherapy using a bioabsorbable polymer sirolimus-eluting stent	Circulation Journal.2021 Jan;85(1):19-26	Original Article
13	Matsuo T., Tashiro H. & Sumiyoshi R. et.al	内科学講座	Functional expression cloning of molecules inducing CD34 expression in bone marrow-derived stromal myofibroblasts	Biochemical and Biophysical Research Communications.2020 Dec;533(4):1283-1289	Original Article
14	Nagase H., Ueki S. & Fujieda S.	内科学講座	The roles of IL-5 and anti-IL-5 treatment in eosinophilic diseases: Asthma, eosinophilic granulomatosis with polyangiitis, and eosinophilic chronic rhinosinusitis	Allergy International.2020 Apr;69(2):178-186	Review
15	Odajima K., Togashi R. & Nemoto Y. et.al	内科学講座	Pyuria without Casts and Bilateral Kidney Enlargement Are Probable Hallmarks of Severe Acute Kidney Injury Induced by Acute Pyelonephritis: A Case Report and Literature Review	Internal Medicine.2021 Jan;60(2):293-298	Review
16	Shibata S., Arima H. & Asayama K. et.al	内科学講座	Hypertension and related diseases in the era of COVID-19: a report from the Japanese Society of Hypertension Task Force on COVID-19	Hypertension Research.2020 Oct;43(10):1028-1046	Review
17	Sumiyoshi R., Tashiro H. & Saito S. et.al	内科学講座	Gemtuzumab ozogamicin monotherapy prior to stem cell infusion induces sustained remission in a relapsed acute myeloid leukemia patient after allogeneic stem cell transplantation: A case report	Medicine.2020 Aug;99(35):e22064	Original Article
18	Tanaka A.	内科学講座	Autoimmune hepatitis: 2019 update	Gut and Liver.2020 Jul;14(4):430-438	Review
19	Tanaka A., Mori M. & Kubota K. et.al	内科学講座	Epidemiological features of immunoglobulin G4-related sclerosing cholangitis in Japan	Journal of Hepato-Biliary-Pancreatic Sciences.2020 Sep;27(9):598-603	Original Article
20	Tanaka A.	内科学講座	PBC: No Longer a Western Disease?	Clinical Liver Disease.2020 Dec;16(6):227-230	Review

21	Tanaka A.	内科学講座	Current understanding of primary biliary cholangitis	Clinical and Molecular Hepatology.2021 Jan;27(1):1-21	Review
22	Tanzawa S., Ushijima S. & Shibata K. et.al	内科学講座	A phase II study of S-1 and cisplatin with concurrent thoracic radiotherapy followed by durvalumab for unresectable, locally advanced non-small-cell lung cancer in Japan (SAMURAI study)	Therapeutic Advances in Medical Oncology.2021 Feb;13(2):	Original Article
23	Tsukamoto K., Takemoto M. & Kubota Y. et.al	内科学講座	Management guideline for Werner syndrome 2020 1. Dyslipidemia and fatty liver associated with Werner syndrome	Geriatrics and Gerontology International.2021 Feb;21(2):133-138	Original Article
24	Tsukui D., Kimura Y. & Kono H.	内科学講座	Pathogenesis and pathology of anti-neutrophil cytoplasmic antibody (ANCA)-associated vasculitis	Journal of Translational Autoimmunity.2021 Jan;4(0):	Review
25	Watanabe Y., Nara Y. & Hioki H. et.al	内科学講座	Short-term effects of low-dose tolvaptan in acute decompensated heart failure patients with severe aortic stenosis: The LOHAS registry	International Journal of Cardiology.2020 Apr;305(0):82-86	Original Article
26	Yamazaki O., Hirohama D. & Ishizawa K. et.al	内科学講座	Role of the ubiquitin proteasome system in the regulation of blood pressure: A review	International Journal of Molecular Sciences.2020 Aug;21(15):1-12	Review
27	Yoshino Y, Kitazawa T, Ota Y.	内科学講座	Clinical Efficacy of Baloxavir Marboxil in the Treatment of Seasonal Influenza in Adult Patients: A Prospective Observational Study	Int J Gen Med . 2020 Oct 1;13:735-741.	Original Article
28	Yoshino Y, Koga I, Kitazawa T, et al.	内科学講座	Magnetic resonance imaging changes in Asian people living with HIV.	Infect Dis (Lond). 2021 Feb;53(2):89-93.	Original Article
29	Yoshino Y, Yamamoto A, Misu K, et al.	内科学講座	Exposure to low temperatures suppresses the production of B-cell activating factor via TLR3 in BEAS-2B cells	Biochem Biophys Rep . 2020 Sep 1;24:100809.	Original Article
30	Yoshino Y, Koga I, Wakabayashi Y, Kitazawa T, Ota Y.	内科学講座	Prevalence of and Risk Factors for Low Free Testosterone Levels in Japanese Men with Well-controlled Human Immunodeficiency Virus Infection	Curr HIV Res. 2020;18(5):381-386.	Original Article
31	Nagase H	内科学講座	Preface to the Proceedings of the 33rd Workshop on Eosinophils in Allergy and Related Diseases 2019	Asia Pac Allergy Apr 27, 10(2):e22.2020	Original Article
32	Toyota H,Sugimoto N,Kobayashi K, et al	内科学講座	Comprehensive analysis of allergen-specific IgE in COPD: mite-specific IgE specifically related to the diagnosis of asthma-COPD overlap	Allergy, Asthma & Clinical Immunology. https://doi.org/10.1186/s13223-021-00514-9 . 2020	Original Article
33	Yagi M, Matsumoto K, Tanaka A, et al.	内科学講座	A validation study of the Ursodeoxycholic Acid Response Score in Japanese patients with primary biliary cholangitis.	Liver Int, 40(8): 1926-1933	Original Article
34	Asaoka Y, Tanaka A.	内科学講座	Clinical implications of WNT/ β -catenin signaling for hepatocellular carcinoma.	Glob Health Med, 2(5): 269-272	Others
35	Yamato H, Abe K, Osumi S,et al.	内科学講座	Clinical factors associated with safety and efficacy in patients receiving direct oral anticoagulants for non-valvular atrial fibrillation	Sci Rep2020; 10(1): 20144	Original Article
36	Hirohama D, Kawarazaki W, Nishimoto M, et al.	内科学講座	PGI2 Analog Attenuates Salt-Induced Renal Injury through the Inhibition of Inflammation and Rac1-MR Activation.	International Journal of Molecular Sciences 2020 Jun	Original Article
37	Shunsei Hirohata, Hirotochi Kikuchi	内科学講座	Role of Serum IL-6 in Neuropsychiatric Systemic lupus Erythematosus.	ACR open rheumatology.3・1 :42-49,2021	Original Article
38	Furukawa Y., Miyaji Y. & Kadoya A. et.al	神経内科学講座	Determining C5, C6 and C7 myotomes through comparative analyses of clinical, MRI and EMG findings in cervical radiculopathy	Clinical Neurophysiology Practice.2021 Jan;6(0):88-92	Original Article
39	Kanbayashi T., Hatanaka Y. & Sonoo M.	神経内科学講座	Transient epileptic amnesia with amygdala enlargement	Neurological Sciences.2020 Jun;41(6):1591-1593	Letter
40	Sonoo M., Takahashi K. & Hamada Y. et.al	神経内科学講座	Split-finger syndrome in amyotrophic lateral sclerosis	Journal of Neurology, Neurosurgery and Psychiatry.2020 Nov;91(11):1235-1236	Letter
41	Sonoo M., Ogawa G. & Hokkoku K. et.al	神経内科学講座	Updated size index valid for both neurogenic and myogenic changes	Muscle and Nerve.2020 Dec;62(6):735-741	Original Article
42	Sonoo M., Uesugi H. & Ogawa G. et.al	神経内科学講座	Appropriate window width for the "clustering index method" in the tibialis anterior muscle	Muscle and Nerve.2021 Jan;63(1):89-95	Original Article

43	Sonoo M., Kanbayashi T. & Idogawa M. et.al	神経内科学講座	Correlation between polymerase chain reaction (PCR) examination rate among the population and the containment of the COVID-19 pandemic	Public Health.2021 Feb;191():31-32	Letter
44	Sonoo M.	神経内科学講座	Paradoxical wrist flexion: A new test to detect functional weakness of the upper limb	eNeurologicalSci.2021 Mar;22():	Original Article
45	Takahashi K., Oishi C. & Hamada Y. et.al	神経内科学講座	The influence of right-left error in the placement of the Cc electrode in tibial nerve somatosensory evoked potentials (SEPs)	Clinical Neurophysiology Practice.2021 Jan;6():215-218	Original Article
46	Tanaka S., Kanbayashi T. & Sonoo M.	神経内科学講座	Neuromyelitis optica spectrum disorder with severe orthostatic hypotension due to hypothalamic lesions	Multiple Sclerosis and Related Disorders.2020 May;40():	Original Article
47	Sasaki K, Watanabe Y, Kataoka A, et al.	循環器内科学講座	Papillary Muscle Rupture During Transcatheter Aortic Valve Replacement	Cardiovasc Interv Ther 2021 Jan; 36(1): 134-135	Original Article
48	Takahashi S, Yokoyama N, Wat	循環器内科学講座	Predictor and Mid-Term Outcome of Clinically Significant	Circ J 2020 May; 84(6): 1020-1027	Original Article
49	Otsuki S, Yamakawa T, Ishibashi R, et al.	循環器内科学講座	Noncontrast Transcatheter pacing system implantation guided by tras-intermal jugular vein approach intracardiac echocardiography	HeartRhythm Case Rep 2021 Jan; 7(5): 283-285	Case report
50	Hayama T., Ozawa T. & Okada Y. et.al	外科学講座	The pretreatment Controlling Nutritional Status (CONUT) score is an independent prognostic factor in patients undergoing resection for colorectal cancer	Scientific Reports.2020 Dec;10(1):	Original Article
51	Hayama T., Ozawa T. & Asako K. et.al	外科学講座	Impact of colon cancer location on the prognostic significance of nutritional indexes and inflammatory markers	In Vivo.2021 Mar;35(2):1261-1269	Original Article
52	Matsumoto A., Yasuko U. & Tsukahara D. et.al	外科学講座	Omission of axillary dissection after neoadjuvant chemotherapy for node-positive primary breast cancer	European Journal of Cancer.2020 Oct;138():S29	Original Article
53	Okada Y., Ozawa T. & Hayama T. et.al	外科学講座	Impact of Fluoropyrimidine and Oxaliplatin-based Chemoradiotherapy in Patients With Locally Advanced Rectal Cancer	In vivo (Athens, Greece).2021 Jan;35(1):593-601	Original Article
54	Ozawa T., Hashiguchi Y. & Ishihara S. et.al	外科学講座	Proposal for a post-operative surveillance strategy for stage I colorectal cancer patients based on a novel recurrence risk stratification: a multicenter retrospective study	International Journal of Colorectal Disease.2021 Jan;36(1):67-74	Original Article
55	Saito Y., Takahashi N. & Matsui A. et.al	外科学講座	Comparative study of the loop-mediated isothermal amplification method and the QIAGEN therascreen PCR kit for the detection of EGFR mutations in non-small cell lung cancer	Journal of Thoracic Disease.2021 Feb;13(2):743-753	Original Article
56	Sakao Y., Kuroda H. & Saito Y. et.al	外科学講座	Radiological imaging and pathological findings of small lung adenocarcinoma: A narrative review	Journal of Thoracic Disease.2021 Jan;13(1):366-371	Review
57	Yokote F., Yamauchi Y. & Uehara H. et.al	外科学講座	Intrathoracic use of a small ultrasonic probe for localizing small lung tumors in thoracoscopic surgery: Empirical results and comparison with preoperative CT images	General Thoracic and Cardiovascular Surgery.2021 Mar;69(3):516-524	Original Article
58	Matsuda K, Hashiguchi Y, Asako K, et al.	外科学講座	A young woman who developed ascending colon cancer 2 years after the onset of ulcerative colitis	Clinical Journal of Gastroenterology.2020 Dec;13(6):1189-1195.	Case report
59	Matsuda K, Hashiguchi Y, Asako K, et al.	外科学講座	Afferent limb syndrome after total proctocolectomy and ileal pouch-anal canal anastomosis	Surgical Case Reports.2020 Aug(オンライン)	Case report
60	Matsuda K, Okada Y, Hashiguchi Y, et al.	外科学講座	Ulcerative colitis that developed during radiotherapy for prostate cancer, deteriorated rapidly and required emergency surgery	Surgical Case Reports.2020 Oct(オンライン)	Case report
61	Onoda K., Kawaguchi A. & Takaya Y. et.al	脳神経外科学講座	A Case of Nervus Intermedius Neuralgia	World Neurosurgery.2020 May;137():89-92	Original Article
62	Onoda K., Kawaguchi A. & Takaya Y. et.al	脳神経外科学講座	The hanging technique using the superior petrosal vein in surgical transposition for trigeminal neuralgia	Interdisciplinary Neurosurgery: Advanced Techniques and Case Management.2020 Dec;22():	Original Article
63	Oyama Y., Ito K. & Asami M. et.al	脳神経外科学講座	A case of delayed-onset vertebral arteriovenous fistula secondary to stab wound of the neck	Journal of Trauma and Acute Care Surgery.2021 Jan;90(6):E169-E170	Note
64	Hirahata M., Kitagawa T. & Fujita M. et.al	整形外科科学講座	A comparative study on the minimal invasiveness of full-endoscopic and microendoscopic cervical foraminotomy using intraoperative motor evoked potential monitoring	Medicina (Lithuania).2020 Nov;56(11):1-10	Original Article

65	Kawabata C., Nagasawa T. & Ono M. et.al	整形外科科学講座	Plasma acrolein level in rheumatoid arthritis increases independently of the disease characteristics	Modern Rheumatology.2021 Mar;31(2):357-364	Original Article
66	Matsuda K., Hashiguchi Y. & Asako K. et.al	整形外科科学講座	A young woman who developed ascending colon cancer 2 years after the onset of ulcerative colitis	Clinical Journal of Gastroenterology.2020 Dec;13(6):1189-1195	Original Article
67	Saka N., Banno M. & Tsujimoto Y.	整形外科科学講座	Letter regarding "Radiation exposure during direct versus indirect image acquisition during fluoroscopy-controlled internal fixation of a hip fracture: Results of a randomized controlled trial"	Injury.2020 Apr;51(4):1131	Letter
68	Saka N., Nomura K. & Amano H. et.al	整形外科科学講座	Coding and prescription rates of osteoporosis are low among distal radius fracture patients in Japan	Journal of Bone and Mineral Metabolism.2020 May;38(3):363-370	Original Article
69	Saka N., Watanabe Y. & Sasaki G. et.al	整形外科科学講座	Nonunion of the sternum treated with cervical locking plate: A case report	Journal of Orthopaedic Science.2020 Nov;25(6):1119-1122	Original Article
70	Sasaki G., Watanabe Y. & Yasui Y. et.al	整形外科科学講座	Clinical and radiological assessment of the induced membrane technique using beta-tricalcium phosphate in reconstructive surgery for lower extremity long bone defects	The bone & joint journal.2021 Mar;103-B(3):456-461	Original Article
71	Toyooka S., Ito M. & Kakinuma A. et.al	整形外科科学講座	Periarticular multimodal drug injection does not improve early postoperative analgesia compared with continuous interscalene brachial plexus block after arthroscopic rotator cuff repair: A retrospective single-center comparative study	Journal of Orthopaedic Science.2020 May;25(3):405-409	Original Article
72	Toyooka S., Leeyaphan J. & Masuda H. et.al	整形外科科学講座	Radiographical post-operative flexion gap balance was improved using a modified gap-balancing technique in navigation-assisted total knee arthroplasty	Journal of Arthroscopy and Joint Surgery.2020 Sep;7(3):116-121	Original Article
73	Tsukada K., Yasui Y. & Morimoto S. et.al	整形外科科学講座	Juxta-Articular Osteoid Osteoma of the Calcaneus in a Young Athlete Treated With Subtalar Arthroscopic Excision: A Case Report	Orthopaedic Journal of Sports Medicine.2020 Aug;8(8):	Original Article
74	Toyooka S., Masuda H., Nishihara N et al.	整形外科科学講座	Tomosynthesis Is Equivalent to Computed Tomography for Evaluating Osseous Integration After Anterior Cruciate Ligament Reconstruction	Arthros Sports Med Rehabil2(2)105-112.2020.4	Original Article
75	Toyooka S., Miyamoto W., Ito M.	整形外科科学講座	Editorial Commentary: Postoperative Pain Management After Arthroscopic Rotator Cuff Repair: The Journey to Pain Relief. Arthroscopy	Journal of Arthroscopic and Related Surgery 36(5)1251-1252.2020.5	Original Article
76	Fujita M., Kitagawa T., Hirahata M et al.	整形外科科学講座	Comparative Study between Full-Endoscopic Discectomy and Microendoscopic Discectomy for the Treatment of Lumbar Disc Herniation.	Medicina (Kaunas);56(12)710.2020.12	Original Article
77	Saka N., Sasaki G., Watanabe Y., Kawano H.	整形外科科学講座	Double plating for longstanding nonunion of the humeral shaft complicated with metaphyseal bone defect and deformity: A case report	Trauma Case Reports 2021	Case report
78	Shiraishi K.	放射線科学講座	Editorial Comment to Three-dimensional analysis of systematic biopsy-derived prostate cancer upgrading over targeted biopsy: Potential of target margin and surrounding region sampling using magnetic resonance-ultrasound image fusion systems	International Journal of Urology.2021 Jan;28(1):129-130	Note
79	Yamamoto A., Kikuchi Y. & Kusakabe T. et.al	放射線科学講座	Imaging spectrum of abnormal subcutaneous and visceral fat distribution	Insights into Imaging.2020 Dec;11(1):	Review
80	Agematsu A., Kamata M. & Uchida H. et.al	皮膚科学講座	A case of type 1 segmental Darier disease showing widespread Blaschkoid skin lesions with p.P160L mutation in ATP2A2	Journal of the European Academy of Dermatology and Venereology.2020 Oct;34(10):e633-e635	Letter
81	Kawasaki Y., Kamata M. & Shimizu T. et.al	皮膚科学講座	Thymus and activation-regulated chemokine (TARC) in patients with psoriasis: Increased serum TARC levels in patients with generalized pustular psoriasis	Journal of Dermatology.2020 Oct;47(10):1149-1156	Original Article
82	Tada Y., Watanabe R. & Noma H. et.al	皮膚科学講座	Short-term effectiveness of biologics in patients with moderate-to-severe plaque psoriasis: A systematic review and network meta-analysis	Journal of Dermatological Science.2020 Jul;99(1):53-61	Original Article
83	Tada Y., Iversen L. & Koo J.	皮膚科学講座	Early efficacy and safety data with fixed-dose combination calcipotriol/betamethasone dipropionate foam attributed to mechanism of absorption and steroid potency	Journal of the European Academy of Dermatology and Venereology.2021 Feb;35(S1):5-9	Original Article
84	Tanaka T., Kamata M. & Fukaya S. et.al	皮膚科学講座	Usefulness of real-time elastography for diagnosing lymph node metastasis of skin cancer: does elastography potentially eliminate the need for sentinel lymph node biopsy in squamous cell carcinoma?	Journal of the European Academy of Dermatology and Venereology.2020 Apr;34(4):754-761	Original Article
85	Uchida H., Kamata M. & Nagata M. et.al	皮膚科学講座	Conjunctivitis in patients with atopic dermatitis treated with dupilumab is associated with higher baseline serum levels of immunoglobulin E and thymus and activation-regulated chemokine but not clinical severity in a real-world setting	Journal of the American Academy of Dermatology.2020 May;82(5):1247-1249	Original Article
86	Uchida H., Kamata M. & Kato A. et.al	皮膚科学講座	One-year real-world clinical effectiveness, safety, and laboratory safety of dupilumab in Japanese adult patients with atopic dermatitis: A single-center retrospective study	Journal of the American Academy of Dermatology.2021 Feb;84(2):547-550	Original Article

87	Watanabe A., Kamata M. & Nagata M. et.al	皮膚科学講座	Mechanical stress caused by acetabular dysplasia possibly contributed to the development of coxitis in a patient with psoriatic arthritis: A case report	Journal of Cutaneous Immunology and Allergy.2020 Jun;3(3):68-70	Letter
88	Ito M, Kamata M, Tada Y, et al.	皮膚科学講座	Introduction of self-injection increases compliance to dupilumab administration in adult patients with atopic dermatitis: A single-center retrospective study.	JAAD Int. 2020 Dec;1(2):91-92.	Letter
89	Nakagawa T.	泌尿器科学講座	Lymph node dissection for bladder cancer: Current standards and the latest evidence	International Journal of Urology.2021 Jan;28(1):7-15	Review
90	Kaneko T, Sakamoto A, Yamada Y et al.	泌尿器科学講座	Uretero-arterial fistula treated with endovascular stent graft following multiple interventions	IJU Case Rep. 2020;3:275-7.	Case report
91	Oshikubo G., Akahane A. & Unno A. et.al	精神神経科学講座	Utility of VSRAD for diagnosing Alzheimer's disease in patients screened for dementia	Journal of International Medical Research.2020 Apr;48(4):	Original Article
92	Nishino T., Ito N. & Shimada S. et.al	小児科学講座	A Neonatal Case of Extralobar Pulmonary Sequestration with Thymus-Like Shadow	Global Pediatric Health.2021 Mar;8(0):	Original Article
93	Urabe R. & Kubota M.	小児科学講座	A case of abdominal functional myoclonus analyzed by movement related cortical potentials	Brain and Development.2020 Oct;42(9):700-703	Original Article
94	Shigehiro Enkai , Hirokazu Kouguchi , Daniel Ken Inaoka .et al.	小児科学講座	Effect of the anti-parasitic compounds pyrimin pamoate and artemisinin in enzymatic and culture assays: Data on the search for new anti-echinococcal drugs	Data Brief.2021.Feb;34:106629	Original Article
95	Morita M., Ryo E. & Kamata H. et.al	産婦人科学講座	Counting fetal movements of small-for-gestational infants using a fetal movement acceleration measurement recorder	Journal of Maternal-Fetal and Neonatal Medicine.2020 Nov;33(21):3699-3705	Original Article
96	Okochi M., Fukushima T. & Okochi H. et.al	形成・口腔顎顔面外科学講座	Donor site of follicular unit excision hair transplantation: the relationship between appearance and actual hair density, and hair diameter	Journal of Plastic Surgery and Hand Surgery.2020 Jun;54(3):172-176	Original Article
97	Ito K., Morishita K. & Tsunoyama T. et.al	救急医学講座	Prospective evaluation of the "stop the Bleed" program in Japanese participants	Trauma Surgery and Acute Care Open.2020 Aug;5(1):	Original Article
98	Ito K., Sou Y. & Koizumi G. et.al	救急医学講座	Infection Control Strategy Using a Hybrid Resuscitation Room System During the COVID-19 Pandemic in Tokyo, Japan	Annals of Emergency Medicine.2020 Dec;76(6):816-817	Letter
99	Ito K., Itoi T. & Sakamoto S. et.al	救急医学講座	Endoscopic ultrasonography-guided hepaticogastrostomy as a bridge to the definitive biliary reconstruction in a pediatric patient with left hepatic duct disruption secondary to blunt liver trauma	Journal of Pediatric Surgery Case Reports.2020 Dec;6(30):	Original Article
100	Nakahara S., Kanda J. & Miyake Y. et.al	救急医学講座	High incidence of heat illness and the potential burden on the health care system during the COVID-19 pandemic	The Lancet Regional Health - Western Pacific.2021 Jan;6(0):	Note
101	Nakayama Y., Suzuki T. & Honda A. et.al	救急医学講座	Interdigitating percutaneous screw fixation for Rommens type IIIa fragility fractures of the pelvis: technical notes and preliminary clinical results	International Orthopaedics.2020 Nov;44(11):2431-2436	Original Article
102	Suzuki T., Kurozumi T. & Watanabe Y. et.al	救急医学講座	Potentially serious adverse effects from application of a circumferential compression device for pelvic fracture: A report of three cases	Trauma Case Reports.2020 Apr;26(0):	Original Article
103	Yamato H., Abe K. & Osumi S. et.al	救急医学講座	Clinical factors associated with safety and efficacy in patients receiving direct oral anticoagulants for non-valvular atrial fibrillation	Scientific Reports.2020 Dec;10(1):	Original Article
104	Kono K., Ito K. & Sasajima Y. et.al	救急医学講座	Retroperitoneal perforation of the descending colon diverticulitis presenting with systemic emphysema	Trauma Surgery and Acute Care Open.2020 Nov;5(1):	Note
105	Ishii K, Kurozumi T, Suzuki T et al.	救急医学講座	Impact of the COVID-19 pandemic on a trauma center of a university hospital in Japan	J Orthop Sci. 2020 Dec 29:S0949-2658(20)30360-2.	Original Article
106	Kitsu K., Shinoda K. & Mizuno Y. et.al	眼科学講座	Effect of paracentesis on retinal function associated with changes in intraocular pressure caused by intravitreal injections	Translational Vision Science and Technology.2020 Aug;9(9):44204	Original Article
107	Mimura T., Iida M. & Noma H. et.al	眼科学講座	Does Clear Corneal Cataract Surgery Influence Conjunctivochalasis?	Journal of Ophthalmic and Vision Research.2020 Jun;15(2):270-272	Letter
108	Mimura T., Mizota A. & Hayashi T. et.al	眼科学講座	In situ observations of porcine ocular surface cells with handheld 2K-pixel microscope	Open Ophthalmology Journal.2020 Dec;14(1):66-69	Original Article

109	Mimura T., Fujishima H. & Uchio E. et.al	眼科学講座	Adhesion of pollen particles to daily disposable soft contact lenses	Clinical Optometry.2021 Mar;13():93-101	Original Article
110	Aratake S., Kayama S. & Watanabe Y. et.al	麻酔科学講座	High-intensity transient signals during transcatheter aortic valve implantation assessed by ultrasonic carotid artery blood-flow monitoring: A single center prospective observational study	Journal of Cardiology.2020 Sep;76(3):244-250	Original Article
111	Hirofumi Nakamoto, Satoru Kayama, Mae Harada, et al.	麻酔科学講座	Airway emergency during general anesthesia in a child with plastic bronchitis following Fontan surgery: a case report.	JA Clinical Reports. 2020 6:6	Case report
112	Honda Y., Momosaki R. & Ogata N.	リハビリテーション医学講座	Nasogastric Tube Feeding Versus Total Parenteral Nutrition in Older Dysphagic Patients with Pneumonia: Retrospective Cohort Study	Journal of Nutrition, Health and Aging.2020 Aug;24(8):883-887	Original Article
113	Numakura S., Saito K. & Motoi N. et.al	病理学講座	P63-negative pulmonary NUT carcinoma arising in the elderly: a case report	Diagnostic Pathology.2020 Dec;15(1):	Original Article
114	Numakura S. & Uozaki H.	病理学講座	Low MLL2 protein expression is associated with fibrosis in early stage gastric cancer	In Vivo.2021 Jan;35(1):603-609	Original Article

小計6件
合計114件

(様式第 3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	有・無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	有・無
・ 手順書の主な内容 倫理委員会への申請受け取りから開催準備、開催、開催審議結果の書類作成、判定書の作成及び送付、申請者への通知書や議事録の送付等を記載している。	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年 12回

- (注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。
2 前年度の実績を記載すること。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	有・無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	有・無
・ 規定の主な内容 利益相反マネジメント規定において、目的・定義・申告すべき教職員と自己申告の時期・自己申告すべき事項・利益相反状態の評価方法・審議結果の報告方法・啓蒙活動と情報の公開・個人情報の管理などについて規定している。	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年 1985回

- (注) 前年度の実績を記載すること。

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年 2回
・ 研修の主な内容 1. 大学院教育に関するワークショップ「倫理審査Q&A」「臨床研究のデザインと統計解析(1回)」 2. LMS教育研究(帝京大学安全保障輸出管理教育プログラム) 3. 全教職員と大学院生にe-ラーニング受講を義務付けている	

- (注) 前年度の実績を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

〈内科〉

- 関節リウマチに合併する多彩な肺炎と鑑別を要したCOVID-19の1例
- 風冒症状後に脳静脈洞血栓症を合併した進行骨肉癌の1例
- 大腸内視鏡検査から播種性非定型抗酸菌症と診断し治療を行った後天性免疫不全症候群患者の1例
- 搬送時COVID-19が疑われ、入院後の検査からニューモシスチス肺炎と診断された1例
- COVID-19入院中に完全房室ブロックを認め、COVID-19寛解後に房室ブロック改善を認めた1例

〈循環器内科〉

- 冠動脈造影検査の評価および結果を上級医と確認し、今後の治療方針について検討する。冠動脈形成術施行症例を確認して、適切なデバイス選択や治療方法について学ぶ。
- AVI症例の検討を循環器内科医、心臓外科医、麻酔科医、放射線技師やMEなどのコメディカルスタッフの多職種で検討する
- 新入局員に対する病棟一般業務や循環器内科各分野の教育的講義や関わる検査について。安全管理、感染対策の指導。

〈緩和ケア内科〉

- がん性疼痛の機序、評価及びWHO方式のがん性疼痛医療法を含むがん性疼痛・呼吸困難、消化器症状等の身体症状・不安、抑うつ及びせん妄等に対する緩和ケアについて。
- がん医療におけるコミュニケーション技術、全人的な緩和ケアについて・放射線用法や神経ブロックの適応も含めた専門的な緩和ケアへの依頼・がん患者の療養場所の選択および地域連携についての要点。
- 在宅における緩和ケア。
- 症候学的手法による病態評価と治療方法を、臨床実践をベッドサイドにおいて習得する。プレゼンテーショントレーニング、アテンディングを併行して行う。2020年度はリモートラウンドで実施。
- 多職種を含むPeer-reviewを行うカンファレンス（リモート）
- 月1～2回、論文を精読する。
- 緩和ケアチームメンバーにて、専門的緩和ケア医療の最新の知見を学ぶ。

〈脳神経内科〉

- 病棟の問題症例を中心に受持ち医などが、最新の文献上の知見などを調べて発表し、皆で知識を共有すると共に診療方針を検討する。
- 最近の興味ある論文について、研修中の医師が調べてその内容をまとめて発表し、皆で知識を共有する。
- シニアの医師による臨床症候、疾患、電気生理などについてのクルズス、受持ち医クラスが問題症例の発表を行い、ラウンドテーブル形式で討論して、皆の知識・技能の向上を図る。2020年度よりZoom開催を主体としており、遠方、海外からの参加者もある。
-

〈泌尿器科〉

- 転移性前立腺癌のファーストライン治療
- ロボット支援膀胱全摘術・体腔内尿路変向術（RARC/ICUD）
- ロボット支援膀胱全摘除術
- 進行膀胱癌の治療成績改善を目指して～ロボット、リンパ節郭清、薬物療法

〈外科〉

- 手術症例についての診断、手術術式、病理結果に関する消化器内科との検討会
- 腹腔鏡手術症例についての腹腔鏡手術ビデオを見ながらの手術手技の検討（12回）と、模型、動物を用いた実技指導（4回）
- 大腸疾患の内視鏡診断に関する講義とシミュレータを用いた大腸内視鏡挿入手技、治療手技の研修
- 毎週月曜日、火曜日にその週の手術予定患者と翌週の手術予定患者について診断、合併症の有無とその対策、周術期管理法、術式、追加的治療の必要性について討議する。
- 毎週水曜日に呼吸器外科ならびに呼吸器疾患に関する英語文献を選定しプレゼンを行い、ディスカッションなどを通して最新の知見を得たり、知識を深めるために勉強会を行う。
- 乳腺外科医を中心に、形成外科医、腫瘍内科医、放射線医、放射線技師、薬剤師などがチームとなって乳腺疾患に関する情報を共有・検討する。
- 乳腺疾患を中心に、最新のトピックスに関するデータや論文等を収集・議論・検討する。
- 消化器外科手術患者に対する最新の周術期管理法を解説した
- 手術症例についての診断、手術術式、病理結果に関する消化器内科との検討会。
- 肝胆膵疾患の外科治療対象症例に関して、手術や病理標本のプレゼンテーション、術直前症例の術前サマリー・画像診断の確認をおこなう。
- 肝胆膵疾患症例に関して、治療方針の検討、手術症例に関する術式の検討、術後の手術報告と病理診断のプレゼンテーション、術後治療の要否を検討し、必要に応じて知識の確認プレゼンテーションをおこなう。
- 消化器疾患の外科治療施行症例に関して、術前サマリー・画像診断・手術報告・病理標本のプレゼンテーションをおこなう

〈小児外科〉

- 入院患者の治療方針の決定。手術期患者の術式、術後経過、手術合併症等の検討。

〈整形外科〉

- 入院症例の治療方針、治療内容の確認。基本的臨床用語の知識の確認。手術方法の指導と知識の確認など。
- 入院患者の管理と治療方針の確認を行う。
- 治療方針に対しての学術的な裏付けを指導し、過去の論文などから検討をする。
- 休日を除きほぼ毎日、その日に来た外傷症例に対して、治療方針の検討を行っている。その中で、エビデンスに則った正しい知識の教育を抄読会やクルズ形式で行っている。

〈脳神経外科〉

- 症例に対する手術前、手術後の神経所見、画像所見の読影と、そこから導き出される、治療方針や、手術アプローチに関する検討を行うカンファランス

〈形成外科〉

- 術前カンファで術式の選択、手術デザインを検討する。術中・術後の状態を撮影したデジタルカメラ像を投影し手術の確認を行い適正に行われたか、問題点がなかったについて検証する。
- 新着英文雑誌より興味ある内容の論文を選択し、抄読会を行う。
- 週1回病棟の褥瘡患者を回診し、その治療法について検討する。また褥瘡の予防法を学び院内での有病率低下に努める。

〈口腔外科〉

- 睡眠時無呼吸症候群に対して歯科としての治療介入について
- 顎変形症患者における術前後の心理的变化について
- 顎骨再建におけるデンタルインプラントの有用性について

〈心臓血管外科〉

○心臓血管外科 専門領域としてのスペシャリティ領域について、大血管 冠動脈 僧帽弁形成 大動脈弁形成 TAVI ステントグラフト 大動脈解離 人工血管置換 等 ガイドラインや最新論文を交えて解説する。

○医学論文を書く上で最低限身につけておきたい医学統計について実例を交えながら、解説する。

○実際のブタ心臓を用いて、冠動脈吻合の実際や人工血管置換術 弁置換術を行い、解剖や手技の解説をし知識を深める。

○心臓血管外科手術手技（開胸・ITA採取・人工心肺カニューレション・人工血管吻合等）に関して、手技をやり始めた若手を中心として方法・コツ等について討論する。

〈産婦人科〉

○産科ガイドライン 婦人科ガイドライン 超音波診断 不妊外来の現況など

○周産期医療、小児科 新生児科との連携

○放射線治療内容の確認 臨床試験の確認

〈耳鼻咽喉科〉

○入院症例ならびに問題がある外来症例についてのカンファランス。

○放射線科と合同で、放射線治療例の検討等も行う

〈眼科〉

○その時点での臨床の患者を中心に討議を行う

〈リハビリテーション科〉

○リハビリテーションの症例や研究内容の発表と報告

〈精神神経科〉

○主担当医からの新規入院患者および退院患者の概要報告と全入院患者の経過が報告され、それらを検討する（P.P. : patient profile）。また、それとは別に、ほぼ全入院患者に対する詳細な症例検討、すなわち、一つのケースについて集中的に診断・治療に関する検討も行っている（C.C. : clinical conference）。

○精神神経科に所属する全医師の研究発表、および外部講師による勉強会を行っている。なお、勉強会ではトピックスから所属医師が希望する内容まで精神医学全般に渡って幅広く行われているのが特徴である。

○毎日夕方、診療チームに分かれて行われるカンファレンス。主担当医から患者の病状、検査結果、投薬、方針などが報告され、その内容を検討すると共にチーム内での情報共有を図っている。

〈小児科〉

○小児科のみならず臨床的に関連する周辺専門領域（2019年度は小児感染症、小児神経、小児放射線）の専門医より、小児臨床の周辺疾患について学ぶ。

○当院小児科に入院している症例について、各疾患分野の専門医を中心に症例検討をすることを通して疾患の理解を深める。

○当院小児科で入院・外来で加療している神経疾患の症例について、小児神経専門医がコアとなり、検査結果を検討するとともに、今後の診断・治療方針の討論に参加し、小児神経疾患に対する理解を深める。

○小児アレルギー分野における知識を深める。

○小児科・産婦人科合同で入院症例のみならず、出生前症例について討論し、治療方針を決定する。

○帝京大学小児科で加療中の症例で、治療や診断に難渋した症例、教訓的な症例について討論する。

○小児科疾患の最新の薬物療法について理解を深める。

○シニアレジデントを主な対象とし、各診療グループのリーダーがそれぞれの分野で習得すべき疾患の病態生理、最新の治療法を教示する。

○小児内分泌分野における知識を深める。

〈放射線科〉

○IVRの適応、術式について

○核医学の診断について

○放射線治療の適応、経過について

〈皮膚科〉

○担当医が症例写真と病理組織を提示し、症例検討して診断治療方針を決定する。

○発疹学やカメラの取り方から各皮膚疾患まで、皮膚科に関連した分野をそれぞれ、担当医が新人へ講義する。

〈救急科〉

○救急科（医師、看護師）、放射線科（医師、放射線技師、看護師）、整形外科（外傷センター）、麻酔科（医師）合同で、当院ハイブリッドERにて診療した3次救急搬送症例の診療の流れや治療内容の振り返りを行い、多専門科で合意形成を行ったうえでのハイブリッドER診療プロトコルのブラッシュアップを行う。

○救命救急センターにおけるAcute Care Surgeryに関して、米国・欧州で用いられている緊急外科手術コースのマニュアル、教科書を使用して救急医として急性期一般外科疾患に対する見識を深める。

〈麻酔科〉

○前日のすべての手術症例に関して報告し、問題点と改善すべき事項について確認する。また当日施行予定の手術麻酔に関する検討を行う。

○麻酔科学全般に及ぶ基礎的事項のレクチャー

○麻酔科学全般に及ぶ高度かつ先進的な話題についてのレクチャー

○麻酔管理上の問題点や重要な合併症を生じた事例について、背景や要因、今後の対策等について検討する。

○学会発表、論文作成にかかわる研究全般について、研究計画の段階から討論する。

〈病理診断科〉

○数件の解剖例を臨床的検索希望事項を含め、解説、協議検討を行う

○10例程度の消化管疾患に対して、病理組織学的診断、臨床経過、所見などをあげ、協議や検討を行う

○10例程度の呼吸器疾患に対して、病理組織学的診断、臨床経過、所見などをあげ、協議や検討を行う

（注）上記の研修内容は医師法及び歯科医師法の規定による臨床研修を終了した医師及び歯科医師に対する専門的な研修について記載すること。

2 研修の実績

上記研修を受けた医師数	280人
-------------	------

（注）前年度の研修を受けた医師の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
塚本 和久	内科	主任教授	35 年	
山本貴嗣	内科	教授	30 年	
上妻 謙	循環器内科	教授	30 年	
渡邊 雄介	循環器内科	准教授	19 年	
紺野 久美子	循環器内科	講師	20 年	
有賀 悦子	緩和ケア内科	主任教授	34 年	
高木 雄亮	緩和ケア内科	講師	17 年	
園生 雅弘	脳神経内科	主任教授	39 年	
神野 浩光	外科	教授	34 年	呼吸器外科・消化器外科・小児外科含む
坂尾 幸則	外科	教授	32 年	呼吸器外科・消化器外科・小児外科含む
松田 圭二	外科	准教授	32 年	呼吸器外科・消化器外科・小児外科含む
野澤 慶次郎	外科	病院准教授	30 年	呼吸器外科・消化器外科・小児外科含む
端山 軍	外科	講師	19 年	呼吸器外科・消化器外科・小児外科含む
深川 剛生	外科	教授	32 年	呼吸器外科・消化器外科・小児外科含む
佐野 圭二	外科	教授	30 年	呼吸器外科・消化器外科・小児外科含む
細田 利史	小児外科	講師	20 年	呼吸器外科・消化器外科・小児外科含む
松野 彰	脳神経外科	主任教授	37 年	
河野 博隆	整形外科	主任教授	29 年	
今西 淳悟	整形外科	准教授	20 年	
松井 健太郎	整形外科	講師	19 年	
今水流 智浩	心臓血管外科	准教授	26 年	
内山 雅照	心臓血管外科	助教	16 年	
中川 徹	泌尿器科	主任教授	27 年	
緒方 直史	リハビリテーション科	主任教授	26 年	
林 直樹	精神神経科	主任教授	40 年	
赤羽 晃寿	精神神経科	病院准教授	25 年	
小室 裕造	形成外科	主任教授	35 年	
大河内 真之	形成外科	病院教授	26 年	
有坂 岳大	口腔外科	講師	18 年	
多田 弥生	皮膚科	主任教授	11 年	
田中 隆光	皮膚科	講師	11 年	
溝田 淳	眼科	主任教授	36 年	
伊藤 健	耳鼻咽喉科	主任教授	33 年	
三牧 正和	小児科	主任教授	27 年	
小林 茂俊	小児科	教授	34 年	
伊藤 直樹	小児科	講師	27 年	
磯島 豪	小児科	講師	22 年	
近藤 浩史	放射線科	主任教授	23 年	

神長 達郎	放射線科	病院教授	33 年
白石 憲史郎	放射線科	病院教授	22 年
長阪 一憲	産婦人科	主任教授	20 年
伊藤 香	救急科	講師	22 年
笹島 ゆう子	病理診断科	主任教授	25 年

(注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。

(注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）

- ・研修の主な内容（放射線部）
 - 乳腺外科オペ前カンファレンス
臨床画像の検討、手術前のリスクチェック 等
- ・研修の期間・実施回数
2020年4月1日～2021年3月31日 48回
- ・研修の参加人数
80名

- ・研修の主な内容（放射線部）
 - TAVIカンファレンス
前回のTAVI症例の経過報告・今後のTAVI予定 等
- ・研修の期間・実施回数
2020年4月1日～2021年3月31日 25回
- ・研修の参加人数
58名

- ・研修の主な内容（病理部）
 - 細胞学会予演
子宮内膜細胞診における偽陰性症例の検討、扁平上皮内病変における組織診断と細胞診判定の不一致の検討 等
- ・研修の期間・実施回数
2020年4月1日～2021年3月31日 3回
- ・研修の参加人数
30名

- ・研修の主な内容（栄養部）
 - 部内勉強会
急性期心不全の早期経腸栄養について(Webセミナー)、胃外科術後障害研究会・症例検討会、妊娠糖尿病(Webセミナー) 等
- ・研修の期間・実施回数
2020年4月1日～2021年3月31日 12回
- ・研修の参加人数
100 名

- ・研修の主な内容（中央検査部）
 - 日本検査血液学会

IDSフロントエンド分注装置導入による血栓・止血検査の運用の流れ 等

・研修の期間・実施回数

2020年4月1日～2021年3月31日 1回

・研修の参加人数

6 名

・研修の主な内容（薬剤部）

○薬剤部員会議・研修会

口腔粘膜保護剤 エピシル、循環器領域における抗血栓療法について、免疫チェックポイント阻害薬による甲状腺機能障害、薬剤部におけるCOVID-19への対応について 等

・研修の期間・実施回数

2020年4月1日～2021年3月31日 6回

② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）

・研修の主な内容（薬剤部）

○薬剤部新入職員研修(同種・同効薬)

インスリン製剤、脂質異常症(高脂血症)治療薬、狭心症治療薬、抗血栓薬、統合失調症治療薬、睡眠薬、抗悪性腫瘍薬 等

・研修の期間・実施回数

2020年4月1日～2021年3月31日 43回

・研修の参加人数

239 名

・研修の主な内容（薬剤部）

○抗菌薬初期研修

ペニシリン系薬、セフェム系抗菌薬とモノバクタム系抗菌薬 等

・研修の期間・実施回数

2020年4月1日～2021年3月31日 12回

・研修の参加人数

55 名

・研修の主な内容（ME部）

○臨床実習指導者研修

・研修の期間・実施回数

2020年4月1日～2021年3月31日 2回

・研修の参加人数

2 名

・研修の主な内容（輸血部）

○部内研修

感染予防対策について 等

・研修の期間・実施回数

2020年4月1日～2021年3月31日 6回

・研修の参加人数

66 名

③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況

・研修の主な内容

・研修の期間・実施回数

・研修の参加人数

(注) 1 高度の医療に関する研修について、前年度実績を記載すること。

(注) 2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。

(様式第 5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画 ②. 現状
管理責任者氏名	診療録 小笠原 后香
管理担当者氏名	和久 正志・稲垣 宏治・小久保 真

		保 管 場 所	管 理 方 法	
診療に関する諸記録	規則第二十二條の三第二項に掲げる事項	病院日誌	総務課	
		各科診療日誌	総務課	
		処方せん	薬剤部	
		手術記録	医療システム部	
		看護記録	医療システム部	
		検査所見記録	医療システム部	
		エックス線写真	医療システム部	
		紹介状	医療システム部	
		退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書	医療システム部	
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第二十二條の三第三項に掲げる事項	従業者数を明らかにする帳簿	総務課	
		高度の医療の提供の実績	各科診療科・総務課	
		高度の医療技術の開発及び評価の実績	〃	
		高度の医療の研修の実績	〃	
		閲覧実績	総務課	
		紹介患者に対する医療提供の実績	医療連携室	
	規則第一條の十一第一項に掲げる事項	規則第一條の十一第一項に掲げる事項	入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	医事保険課・医療サービス課 薬剤部
			医療に係る安全管理のための指針の整備状況	安全管理部 総務課
			医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	安全管理部 総務課
			医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	安全管理部 総務課
		医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	安全管理部 総務課	

			保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一第二項第一号から第三号までに掲げる事項	院内感染対策のための指針の策定状況	感染制御部 総務課	
		院内感染対策のための委員会の開催状況	感染制御部 総務課	
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	感染制御部 総務課	
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	感染制御部 総務課	
		医薬品安全管理責任者の配置状況	総務課	
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	安全管理部 薬剤部 総務課	
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部 総務課	
		医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	総務課 薬剤部 (DI室) 安全管理部	
		医療機器安全管理責任者の配置状況	総務課	
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	ME部 中央放射線部 総務課	
		医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	ME部 中央放射線部 管財課	
医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	ME部 中央放射線部 管財課			

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第九条の二十の二第一項第一号から第十三号まで及び第十五条の四各号に掲げる事項	医療安全管理責任者の配置状況	総務課
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	総務課
		医薬品安全管理責任者の業務実施状況	薬剤部
		医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	総務課
		診療録等の管理に関する責任者の選任状況	総務課
		医療安全管理部門の設置状況	総務課
		高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	安全管理部 総務課
		未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	安全管理部 総務課
		監査委員会の設置状況	総務課
		入院患者が死亡した場合等の医療安全管理部門への報告状況	安全管理部
		他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況	安全管理部 感染制御部
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	患者相談室 安全管理部
		医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況	総務課
		職員研修の実施状況	総務課
		管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況	総務課
		管理者が有する権限に関する状況	総務課
管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況	法人本部		
開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の整備状況	法人本部		

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第 6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画	②. 現状
閲覧責任者氏名	小笠原 后香 (専任・診療録管理)	
閲覧担当者氏名	和久 正志・稲垣 宏治・小久保 真	
閲覧の求めに応じる場所	診療情報管理部・閲覧室	
閲覧の手続の概要 様式第 5 に記載の通り、「病院の管理及び運営に関する諸記録」はそれぞれの担当管理部署で適正に保管しているため、医師や歯科医師等から依頼があった場合には、全体の窓口は総務課となる。依頼用紙に記入してもらい、閲覧室内で対応する。		

(注)既に医療法施行規則第 9 条の 20 第 5 号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数	延	0	件
閲覧者別	医師	延	0 件
	歯科医師	延	0 件
	国	延	0 件
	地方公共団体	延	0 件

(注)特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

規則第1条の11第1項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	☑・無
<p>・ 指針の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 安全管理に関する基本的な考え方 2. 安全管理委員会その他の組織に関する基本事項 3. 安全管理のための職員研修に関する基本方針 4. 安全確保を目的とした、事故報告書にもとづく改善策の立案、実施に関する基本方針 5. 医療事故発生時の対応に関する基本方針 6. 病院職員と患者の情報共有に関する基本方針 7. 患者と家族への説明と同意に関する基本方針 8. 患者と家族等からの相談への対応に関する基本方針 9. 高難度新規医療技術の導入に関する基本方針 10. 安全管理対策に関する指針および安全管理マニュアルの見直しと周知の方針 	
② 医療に係る安全管理のための委員会の設置及び業務の状況	
<p>・ 設置の有無（☑・無）</p> <p>・ 開催状況：年 12 回</p> <p>・ 活動の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 安全管理対策の推進 (2) 医療事故発生防止のために平時より次の事項を行う。 <ol style="list-style-type: none"> ①医療安全に関する情報収集 ②医療安全に係わる職員教育 ③事故発生防止策と施設・設備の改善計画の立案 ④事故発生防止策の実施状況の調査と必要に応じた見直し ⑤医療安全に係わるモニタリング項目の策定 (3) 当院において重大な問題その他本委員会において取り扱うことが適当な問題が発生した場合に次の事項を行う。 <ol style="list-style-type: none"> ①原因究明のための調査及び分析 ②診療録、看護記録等の調査および指導 ③患者、家族等への対応状況の確認および指導 ④再発予防策の立案・実施・職員への周知徹底 ⑤再発予防策の実施の状況の調査および必要に応じた見直し (4) 全ての死亡事例、管理者が定める水準以上の事例の収集状況の確認と確認結果の管理者への報告および職員への研修・指導 (5) 特定機能病院間相互のピアレビューの結果報告に基づく改善策の立案 	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 11 回
<p>・ 研修の内容（すべて）：</p> <p style="text-align: center;">別紙 7 参照</p>	
④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の実施状況	
<p>・ 医療機関内における事故報告等の整備（☑・無）</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <p style="text-align: center;">安全管理委員会において事故の事例分析および発生要因の分析を行い、改善策を立案し、各部署・職員に対し周知徹底する。</p>	

(注) 前年度の実績を記入すること。

医療に係わる安全管理のための職員研修の実施状況(2020年度)

研修区分	期日	時間	参加人数	テーマ
新入職員 オリエンテーション	2020年4月1日(水)	8:30~11:30	医師 125 名 看護職員 155 名 医療技術員 20 名 事務職員 4 名	安全管理体制について
臨床研修医基礎研修	2020年4月1日(水) ~ 2020年4月20日(月)	8:30~17:00(平日) 9:00~12:30(土曜)	研修医 32 名	ヒューマンエラーと医療安全 高難度・未承認、死亡報告、死亡報告書の書き方について 院内急変への対応 医療事故防止 患者確認実習 ヒヤリハット・アクシデント報告について 医療過誤および異常死の取り扱い M&Mカンファレンスについて 医薬品安全情報について
看護師新入職者 研修会	2020年4月1日(水) ~ 2020年4月8日(水) ほか	8:30~17:00(平日) 8:30~12:30(土曜) ほか	看護師 155 名	事故防止総論 指示簿の見方、患者認証、サインの方法 転倒・転落防止対策 チューブトラブル防止対策 内服について 酸素ボンベの取扱い 注射、点滴、採血、BSチェックについて インシュリンについて 輸血について
多職種連携定期研修	毎月第3金曜日	12:10~12:45	研修医 63 名	ヒヤリハット・アクシデント報告 麻薬の取扱いについて コミュニケーションエラーについて 個人情報の取り扱いについて 倫理について 医療事故調査制度について 転倒・転落防止について 生体監視モニターについて 患者誤認について 急変対応について CVC、バスカス、動脈挿入について 臨床研修医リスクマネージャーによるインシデント・アクシデント事例の分析
リスクマネージャー研修会	2020年10月24日(土)	13:00~16:00	RM 43名 安全管理部 13名	講義:医療安全/RCA分析 グループワーク:RCA分析におけるヒアリング演習
医師事務作業補助者研修会	2020年7月21日(火)	9:00~11:00	4名	医療事故防止について
M&Mカンファレンス	2021年3月25日(木)	17:30~18:30	22名	複数診療科に係る事例検討
医療安全および 感染防御に関する研修会	2020年6月12日(金) ほかDVD配布	17:30~18:30	2278 名	安全管理マニュアルポケット版について 高難度新規医療技術を用いた医療の提供について 医療機器の安全使用について 医薬品の安全使用について [テスト実施]
災害および医療安全等に 関する研修会	2020年7月16日(木) ほかDVD配布	17:30~18:30	2267 名	診療用放射線の安全利用について
医療安全に関する 研修会	2020年12月10日(木) ほかDVD配布	17:30~18:30	2199 名	コロナ禍における医療安全体制の構築 インフォームドコンセントにおける説明文書と説明記録の重要性 [テスト実施]
医療安全および 感染防御に関する研修会	2021年2月18日(木)	17:30~18:30	2165 名	せん妄に対するサイレース注の適応外使用について 2020年度レジリエンスTOPICS 適応外医薬品等評価委員会について レジリエンス・グッドリカバリーで事故防止および影響軽減を! 2020年グッドリカバリー賞 [テスト実施]
中途採用に対する教育	原則入職日に受講、DVD配布		医師 12 名 看護職員 0 名 医療技術員 9 名 事務職員 6 名	医療安全について (入職日に安全管理マニュアルポケット版の内容について教育・ 受講確認、DVD配布、確認テストを実施)
医療安全e-Learning				(2020年7月~) 安全管理の指針、安全管理体制、患者影響レベル分類、医療事 故の報告、重大事故発生時の対応、緊急蘇生、ヒヤリハット・ア クシデント、COVID-19関係 (2020年12月~) ヒヤリハット・アクシデント、死亡対応、医療事故調査制度、患者 緊急対応、転倒転落、暴力対応、感染関係、薬剤関連

規則第1条の11第2項第1号に掲げる院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	☑・無
<p>・ 指針の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 院内感染対策に関する基本的な考え方 2. 院内感染対策のための委員会および組織に関する基本事項 3. 院内感染対策のための職員研修に関する基本方針 4. 院内感染発生状況の報告に関する基本方針 5. 院内感染発生時の対応に関する基本方針 6. 患者などに対する当該指針の閲覧に関する基本方針 7. 院内感染対策のための指針および院内感染対策要綱の見直しと周知の方針 	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年 12 回
<p>・ 活動の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 院内感染状況を監視、調査するとともに、対策を立案し、その拡大を防止するための具体策を関係方面に提言するとともに、対策の実施について病院長および感染制御部長に具申する。 2. 周知すべき感染症の情報を院内諸方面に伝達する。 3. その他、院内感染予防のために必要な業務を行う。 	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 6 回
<p>・ 研修の内容（すべて）：</p> <p style="text-align: center;">別紙 8 参照</p>	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
<p>・ 病院における発生状況の報告等の整備 (☑・無)</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <p>感染制御部・感染制御委員会において感染症発生要因の分析を行い、改善策を立案し、各部署・職員に対し周知徹底する。</p>	

(注) 前年度の実績を記入すること。

院内感染対策に関する職員研修(2020年度)

研修区分	期日	時間	参加人数	テーマ
新入職員 オリエンテーション	2020年4月1日(水)	8:40~11:30	医師 125 名 看護職員 155 名 医療技術員 20 名 事務職員 4 名	院内感染対策について (4月1日(水) 10:10 ~ 10:55)
看護師 新入職者研修会	2020年4月1日(水) 5 2020年4月8日(水)	8:30~17:00(平日) 8:30~12:30(土曜)	看護師 155 名	感染防止総論 (4月1日(水) 16:30 ~ 17:00) 基礎看護 環境調整技術 (A班 4月4日(土) 8:45~9:45のうち20分間) (B班 4月4日(土) 8:45~10:05のうち20分間)
研修医基礎研修	2020年4月1日(水) 5 2020年4月20日(月) 2020年4月27日(月)	8:30~17:00(平日) 9:00~12:30(土曜)	研修医32名	個人防護具着脱実習 (4月16日(木) 13:00 ~ 14:00) 感染症診療について (4月16日(木) 14:10 ~ 15:10)
院内感染対策 講習会 第1回 (DVD講習含む)	2020年6月12日(金)	17:30~	2278名	「院内感染対策要綱ポケット版の改訂点と活用術」 講師:冬室純子 「外来診療における抗微生物薬の適正使用について」 講師:足立匠 「感染経路別予防策」 講師:冬室純子
ストップ感染デー (院内感染対策講習会) 第2回 (DVD講習含む)	2020年9月2日(水)	17:30~	2244名	「発熱外来 ~共に創り上げてきた5ヶ月間、看護師の立場から~」 講師:内科外来 看護師 村上沙綾 「7東病棟コホート(集団隔離)化一内科医局長の立場から」 講師:内科医師 田村好古 「GICUにおける重症新型コロナ肺炎(Covid-19)患者への取り組みについて」 講師:麻酔科医師 張京浩 「高度救命救急センターにおけるCOVID-19 疑い患者の収容について」 講師:救急科医師 神田潤 「新型コロナウイルス感染症(感染制御部による対応とこれからの注意点)」 講師:感染制御部医師 竹澤智湖
院内感染対策 講習会 第3回 (DVD講習含む)	2021年2月18日(木)	17:30~	2165名	「SSIサーベイランスについて(年度末報告)」 講師:菊池智美 「当院のASTの現状について」 講師:柴田裕介 「2020年度を振り返る」 講師:松永直久

規則第1条の11第2項第2号に掲げる医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品安全管理責任者の配置状況	☑・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 2 回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <p style="text-align: center;">別紙 9 参照</p>	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
<p>・ 手順書の作成 (☑・無)</p> <p>・ 手順書の内訳に基づく業務の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 医薬品の採用・購入に関する事項 2. 医薬品の管理に関する事項 3. 患者に対する医薬品の投薬指示から調剤に関する事項 4. 患者に対する与薬や服薬指導に関する事項 5. 病棟における医薬品の管理に関する事項 6. 入院患者への医薬品使用に関する事項 7. 医薬品の安全使用に係る情報の取扱いに関する事項 8. 他施設との連携に関する事項 9. 院内製剤に関する事項 10. 放射性医薬品に関する事項 	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<p>・ 医薬品に係る情報の収集の整備 (☑・無)</p> <p>・ 未承認等の医薬品の具体的な使用事例（あれば）：モーズ軟膏 乳がん浸潤による皮膚潰瘍の汚臭、止血効果を目的に使用</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容： 未承認医薬品のみならず、医薬品の禁忌・適応外使用における患者への説明・同意に関するカルテ記載等についても職員メールで注意喚起している。</p>	

(注) 前年度の実績を記入すること。

医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況(2020年度)

研修区分	期日	時間	参加人数	テーマ
新入職員 オリエンテーション	2020年4月1日(水)	8:30~11:30	医師 125 名 看護職員 155 名 医療技術員 20 名 事務職員 4 名	安全管理体制について
臨床研修医基礎研修	2020年4月1日(水) ~ 2020年4月20日(月)	8:30~17:00(平日) 9:00~12:30(土曜)	研修医 32 名	ヒューマンエラーと医療安全 高難度・未承認、死亡報告、死亡報告書の書き方について 院内急変への対応 医療事故防止 患者確認実習 ヒヤリハット・アクシデント報告について 医療過誤および異常死の取り扱い M&Mカンファレンスについて 医薬品安全情報について
看護師新入職者 研修会	2020年4月1日(水) ~ 2020年4月8日(水) ほか	8:30~17:00(平日) 8:30~12:30(土曜) ほか	看護師 155 名	事故防止総論 指示簿の見方、患者認証、サインの方法 転倒・転落防止対策 チューブトラブル防止対策 内服について 酸素ボンベの取扱い 注射、点滴、採血、BSチェックについて インシュリンについて 輸血について
多職種連携定期研修	毎月第3金曜日	12:10-12:45	研修医 63 名	ヒヤリハット・アクシデント報告 麻薬の取扱いについて コミュニケーションエラーについて 個人情報の取り扱いについて 倫理について 医療事故調査制度について 転倒・転落防止について 生体監視モニターについて 患者誤認について 急変対応について CVC、バスキャス、動脈誤挿入について 臨床研修医リスクマネージャーによるインシデント・アクシデント事例の分析
リスクマネージャー研修会	2020年10月24日(土)	13:00-16:00	RM 43名 安全管理部 13名	講義:医療安全/RCA分析 グループワーク:RCA分析におけるヒアリング演習
医師事務作業補助者研修会	2020年7月21日(火)	9:00~11:00	4名	医療事故防止について
M&Mカンファレンス	2021年3月25日(木)	17:30~18:30	22名	複数診療科に係る事例検討
医療安全および 感染防御に関する研修会	2020年6月12日(金) ほかDVD配布	17:30-18:30	2278 名	安全管理マニュアルポケット版について 高難度新規医療技術を用いた医療の提供について 医療機器の安全使用について 医薬品の安全使用について [テスト実施]
災害および医療安全等に 関する研修会	2020年7月16日(木) ほかDVD配布	17:30-18:30	2267 名	診療用放射線の安全利用について
医療安全に関する 研修会	2020年12月10日(木) ほかDVD配布	17:30-18:30	2199 名	コロナ禍における医療安全体制の構築 インフォームドコンセントにおける説明文書と説明記録の重要性 [テスト実施]
医療安全および 感染防御に関する研修会	2021年2月18日(木)	17:30-18:30	2165 名	せん妄に対するサイレース注の適応外使用について 2020年度レジリエンスTOPICS 適応外医薬品等評価委員会について レジリエンス・グッドリカバリーで事故防止および影響軽減を! 2020年グッドリカバリー賞 [テスト実施]
中途採用に対する教育	原則入職日に受講、DVD配布		医師 12 名 看護職員 0 名 医療技術員 9 名 事務職員 6 名	医療安全について (入職日に安全管理マニュアルポケット版の内容について教育・ 受講確認、DVD配布、確認テストを実施)
医療安全e-Learning				(2020年7月~) 安全管理の指針、安全管理体制、患者影響レベル分類、医療事 故の報告、重大事故発生時の対応、緊急蘇生、ヒヤリハット・ア クシデント、COVID-19関係 (2020年12月~) ヒヤリハット・アクシデント、死亡対応、医療事故調査制度、患者 緊急対応、転倒転落、暴力対応、感染関係、薬剤関連

規則第1条の11第2項第3号に掲げる医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器安全管理責任者の配置状況	☑・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年 166 回 (全体研修1回)
<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の主な内容： ・ 人工呼吸器、人工心肺および補助循環装置、血液浄化装置、除細動器(AED)を除く、閉鎖式保育器、診療用高エネルギー放射線装置、診療用放射線照射装置に対して65回の定期研修を計画・実施し、実施状況を毎月の医療機器安全管理委員会にて医療機器安全管理責任者へ報告している。 ・ 新規導入機器に対する研修会：143回 ・ 既存機器に対する研修会：11回 <p>全体研修：別紙 10 参照</p>	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療機器に係る計画の策定 (☑・無) ・ 機器ごとの保守点検の主な内容： <p>前年度の3月までに点検計画策定を行い、医療機器安全管理委員会にて医療機器安全管理責任者の承諾を取り新年度より実施する。実施状況を毎月に医療機器安全管理委員会にて医療機器安全管理責任者へ報告している。</p> <p>保守点検の主な内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 使用前、使用中、使用後の点検 2) 定期点検および年次点検(医療機器ごとに機関を設定し、メーカー依頼している。) 3) 点検方法は各医療機器の取扱説明書を参考に実施。 	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療機器に係る情報の収集の整備 (☑・無) ・ 未承認等の医療機器の具体的な使用事例(あれば)：なし <p>その他の改善のための方策の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 医療機器安全使用のために必要な情報の収集・取扱説明書と添付文書を電子カルテへ掲示・メーカーからの情報提供やインターネットからPMDA、医療安全情報などを収集し、安全管理部及び安全管理委員会と連携し、電子カルテインフォメーション、医療機器安全研修会にて通達、報告している。 ・ その他の改善のための方策・毎月の医療機器安全管理委員会にて医療機器の不具合事象の報告 ・ 安全管理部及び安全管理委員会と連携し改善と対策をしている。 	

(注) 前年度の実績を記入すること。

医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況(2020年度)

研修区分	期日	時間	参加人数	テーマ
新入職員 オリエンテーション	2020年4月1日(水)	8:30~11:30	医師 125 名 看護職員 155 名 医療技術員 20 名 事務職員 4 名	安全管理体制について
臨床研修医基礎研修	2020年4月1日(水) ~ 2020年4月20日(月)	8:30~17:00(平日) 9:00~12:30(土曜)	研修医 32 名	ヒューマンエラーと医療安全 高難度・未承認、死亡報告、死亡報告書の書き方について 院内急変への対応 医療事故防止 患者確認実習 ヒヤリハット・アクシデント報告について 医療過誤および異常死の取り扱い M&Mカンファレンスについて 医薬品安全情報について
看護師新入職者 研修会	2020年4月1日(水) ~ 2020年4月8日(水) ほか	8:30~17:00(平日) 8:30~12:30(土曜) ほか	看護師 155 名	事故防止総論 指示簿の見方、患者認証、サインの方法 転倒・転落防止対策 チューブトラブル防止対策 内服について 酸素ボンベの取扱い 注射、点滴、採血、BSチェックについて インシュリンについて 輸血について
多職種連携定期研修	毎月第3金曜日	12:10~12:45	研修医 63 名	ヒヤリハット・アクシデント報告 麻薬の取扱いについて コミュニケーションエラーについて 個人情報の取り扱いについて 倫理について 医療事故調査制度について 転倒・転落防止について 生体監視モニターについて 患者誤認について 急変対応について CVC、バスキャス、動脈誤挿入について 臨床研修医リスクマネージャーによるインシデント・アクシデント事例の分析
リスクマネージャー研修会	2020年10月24日(土)	13:00~16:00	RM 43名 安全管理部 13名	講義:医療安全/RCA分析 グループワーク:RCA分析におけるヒアリング演習
医師事務作業補助者研修会	2020年7月21日(火)	9:00~11:00	4名	医療事故防止について
M&Mカンファレンス	2021年3月25日(木)	17:30~18:30	22名	複数診療科に係る事例検討
医療安全および 感染防御に関する研修会	2020年6月12日(金) ほかDVD配布	17:30~18:30	2278 名	安全管理マニュアルポケット版について 高難度新規医療技術を用いた医療の提供について 医療機器の安全使用について 医薬品の安全使用について [テスト実施]
災害および医療安全等に 関する研修会	2020年7月16日(木) ほかDVD配布	17:30~18:30	2267 名	診療用放射線の安全利用について
医療安全に関する 研修会	2020年12月10日(木) ほかDVD配布	17:30~18:30	2199 名	コロナ禍における医療安全体制の構築 インフォームドコンセントにおける説明文書と説明記録の重要性 [テスト実施]
医療安全および 感染防御に関する研修会	2021年2月18日(木)	17:30~18:30	2165 名	せん妄に対するサイレース注の適応外使用について 2020年度レジリエンスTOPICS 適応外医薬品等評価委員会について レジリエンス・グッドリカバリーで事故防止および影響軽減を! 2020年グッドリカバリー賞 [テスト実施]
中途採用に対する教育	原則入職日に受講、DVD配布		医師 12 名 看護職員 0 名 医療技術員 9 名 事務職員 6 名	医療安全について (入職日に安全管理マニュアルポケット版の内容について教育・ 受講確認、DVD配布、確認テストを実施)
医療安全e-Learning				(2020年7月~) 安全管理の指針、安全管理体制、患者影響レベル分類、医療事 故の報告、重大事故発生時の対応、緊急蘇生、ヒヤリハット・ア クシデント、COVID-19関係 (2020年12月~) ヒヤリハット・アクシデント、死亡対応、医療事故調査制度、患者 緊急対応、転倒転落、暴力対応、感染関係、薬剤関連

規則第9条の20の2第1項第1号から第13号の二に掲げる事項の実施状況

① 医療安全管理責任者の配置状況	☑・無
<p>・責任者の資格（<u>医師</u>・歯科医師）</p> <p>・医療安全管理責任者による医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の統括状況</p> <p>医療安全管理責任者は安全管理担当副院長が担っており、安全管理担当副院長は安全管理委員会委員長及び、安全管理部員を務めている。医薬品安全管理責任者及び、医療機器安全管理責任者は安全管理部に所属し、安全管理委員会において活動状況を報告している。</p>	
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	☑（7名）・無
<p>③ 医薬品安全管理責任者の業務実施状況</p> <p>・医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況</p> <p>医薬品安全管理責任者は、医薬品の安全使用状況を把握するために薬剤部内に所属する全ての薬剤師を指名し、以下の業務を確認する。</p> <p>医薬品情報室の薬剤師が、病棟を担当する薬剤師を通じて院内の医薬品の使用状況を定期的に（1カ月に1回）確認し、その結果を踏まえて添付文書情報（禁忌等）、緊急安全性情報、未承認医薬品の使用時または医薬品の適応外使用時等の医薬品安全管理に係る情報を整理し、必要に応じてその結果を医薬品安全管理責任者に報告する。</p> <p>医薬品安全管理責任者は、報告された情報を踏まえ、安全管理部長に報告するとともに、必要に応じて医薬品の適正使用のための注意喚起情報を、医薬品情報室を通じて周知する。</p> <p>・未承認等の医薬品の使用に係る必要な業務の実施状況</p> <p>薬剤師等の医療従事者は、未承認の医薬品等（治験等を除く）の使用、医薬品の適応外・禁忌等に該当する処方または指示を見いだした場合、薬剤部医薬品情報室に報告する。また、必要に応じて、処方医等に当該処方または指示の必要性やリスク検討の有無、妥当性等を確認し、指導を行い、その内容を診療録に記載する。</p> <p>医薬品安全管理責任者は、薬剤部医薬品情報室に報告された、未承認の医薬品等（治験薬を除く）の使用、医薬品の適応外・禁忌等に該当する処方または指示に関する情報を定期的に（1カ月に1回）確認し、必要に応じて、処方医等への指導を行うとともに、未承認の医薬品等（治験薬を除く）の使用に関して必要な情報を、医薬品情報室を通じて周知する。</p> <p>・担当者の指名の有無（☑）・無</p> <p>・担当者の所属・職種：</p>	

(所属：薬剤部(医薬品情報室責任者)，職種：薬剤師) (所属：薬剤部(病棟担当責任者，職種： 薬剤師) (所属：薬剤部(調剤・製剤・注射管理部門担当責任者，職種：薬剤師) (所属：薬剤部(化学療法部門担当責任者，職種：薬剤師)	
④ 医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	☑・無
・医療の担い手が説明を行う際の同席者、標準的な説明内容その他説明の実施に必要な方法に関する 規程の作成の有無 (☑・無) ・説明等の実施に必要な方法に関する規程に定められた事項の遵守状況の確認、及び指導の主な内容 : 診療情報管理部と連携して、定められた書式を用いて適正な手順で実施しているかモニタリングを 行っている。 : 研修会にてインフォームドコンセントの正しい手順について指導 : 管理責任者が診療科へ改善事項について指導	

⑤ 診療録等の管理に関する責任者の選任状況	☑・無
・診療録等の記載内容の確認、及び指導の主な内容： 別紙 11 参照	
⑥ 医療安全管理部門の設置状況	☑・無
・所属職員：専従（7）名、専任（1）名、兼任（21）名 うち医師：専従（1）名、専任（1）名、兼任（13）名 うち薬剤師：専従（1）名、専任（0）名、兼任（1）名 うち看護師：専従（2）名、専任（0）名、兼任（2）名 (注) 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること ・活動の主な内容： (1) 安全管理対策の推進 (2) 安全管理部会および臨時の安全管理委員会の開催 (3) リスクマネージャー会議を開催し、安全管理委員会で決定された事項の周知徹底 (4) 医療安全対策の推進 (5) 医療事故発生防止のための情報収集と教育 (6) 医療安全に資する診療内容および従業者の医療の安全に関する意識の向上のモニタリング	

【モニタリング項目：死亡事例、口頭指示、手術時の出血、カテーテル挿入】

- (7) 院内各部署への立ち入り調査と関係書類の調査
- (8) 安全管理に関わる関係部署との連絡調整
- (9) 医療事故発生防止のための対策の立案と施設・設備の改善計画の立案および実施状況の調査
- (10) 特定機能病院間相互のピアレビュー実施および結果報告
- (11) 発生した医療事故の実情の把握と処理法の立案および実施
- (12) 発生した医療事故等に関する診療録、看護記録等の調査および指導
- (13) 発生した医療事故に対する患者、家族等への対応状況の確認および指導
- (14) 発生した医療事故の原因の究明および指導
- (15) 発生した医療事故に対する再発予防対策の立案・実施・職員への周知徹底
- (16) 安全管理委員会，安全管理部会，リスクマネージャー会議の資料および議事録の作成並びに保存等の庶務に関すること
- (17) 全ての死亡事例、管理者が定める水準以上の事例の収集および管理者への報告
- (18) 研究に関わる有害事象報告について臨床試験・治験統括センターへの情報提供
- (19) 高難度新規医療技術評価係を設置し、部員の医療機器安全管理責任者を責任者として、高難度新規医療技術の実施の適否を判断すること
- (20) 未承認新規医薬品等評価係を設置し、部員の医薬品安全管理責任者を責任者として、未承認新規医薬品等を用いた医療の提供を判断すること
- (21) 適応外医薬品等評価係を設置し、部員の医薬品安全管理責任者を責任者として、適応外医薬品等を用いた医療の提供を判断すること

※ 平成二八年改正省令附則第四条第一項及び第二項の規定の適用を受ける場合には、専任の医療に係る安全管理を行う者が基準を満たしていることについて説明すること。

※ 医療安全管理委員会において定める医療安全に資する診療内容及び従事者の医療安全の認識についての平時からのモニタリングの具体例についても記載すること。

⑦ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況

- ・前年度の高難度新規医療技術を用いた医療の申請件数（ 21 件）、及び許可件数（ 21 件）
- ・高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置の有無（ ・無 ）
- ・高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（ ・無 ）
- ・活動の主な内容：
各診療科からの下記確認事項（①～⑤）の申請に対し、高難度新規医療技術評価委員会に導入の適否、実施を認める条件等について意見聴取。その委員会の意見を踏まえ提供の適否判定を行い、診療科長および病院長へ結果通知。提供後は実施報告内容の確認を行う。
 - ①患者の病態等を踏まえた既存技術の限界・問題点
 - ②高難度新規医療技術と既存の医療技術とを比較した場合の優位性（合併症の重篤性及び発生の可能性等の安全性の観点を含む）
 - ③当該高難度新規医療技術を用いた医療を提供する医師又は歯科医師その他の従業員の高難度医療技術を用いた医療の提供に関する経験
 - ④必要な設備・体制の整備状況（集中治療室、麻酔科医師、外来/病棟看護師との連携等）
- ⑤患者に対する説明及び同意の取得の方法

- ・ 規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無 (・ 無)
- ・ 高難度新規医療技術評価委員会の設置の有無 (・ 無)

⑧ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況

- ・ 前年度の未承認新規医薬品等を用いた医療の申請件数 (213 件)、及び許可件数 (213 件)
- ・ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の設置の有無 (・ 無)
- ・ 未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び未承認新規医薬品等の使用条件を定め使用の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無 (・ 無)

・ 活動の主な内容 :

各診療科からの下記確認事項 (①~⑤) の申請に対し、未承認新規医薬品等評価委員会に使用の適否、実施を認める条件等について意見聴取。その委員会の意見を踏まえ使用の適否判定を行い、診療科長および病院長へ結果通知。使用後は、実施報告内容の確認を行う。

- ①患者の病態等を踏まえた既存医薬品等の限界・問題点
- ②当該未承認新規医薬品等と既存の医薬品等を比較した場合の優位性 (予測される有害事象の重篤性、頻度等の安全性等の観点を含む)
- ③未承認新規医薬品等の使用条件 (使用する医師又は歯科医師の制限等)
- ④当該未承認新規医薬品等の使用に起因するものと疑われる有害事象の把握の方法 (血液検査の実施、調査票の配布等)

⑤患者に対する説明及び同意の取得の方法

- ・ 規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無 (・ 無)
- ・ 未承認新規医薬品等評価委員会の設置の有無 (・ 無)

⑨ 入院患者が死亡した場合などの医療安全管理部門への報告状況

- ・ 入院患者が死亡した場合の医療安全管理部門への報告状況 : 年 968 件
- ・ 上記に掲げる場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したとき当該事象の発生の事実及び発生前の状況に関する医療安全管理部門への報告状況 : 年 161 件
- ・ 上記に関する医療安全管理委員会の活動の主な内容
すべての死亡事例、管理者が定める水準以上の事例の収集状況の確認と確認結果の管理者への報告および職員への研修・指導

⑩ 他の特定機能病院等の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況

- ・ 他の特定機能病院等への立入り ((病院名 : 東京医科大学病院、国立国際医療研究センター病院) ・ 無)

<p>・他の特定機能病院等からの立入り受入れ（有）（病院名：東京医科大学病院、国立国際医療研究センター病院）・無）</p> <p>・技術的助言の実施状況</p> <p>※COVID-19 感染拡大防止のため、自己評価票と自己評価票に関する確認事項、質問事項のやり取りで実施した。</p>
<p>⑩ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況</p>
<p>・体制の確保状況</p> <p style="text-align: center;">別紙 12 参照</p>

<p>⑪ 職員研修の実施状況</p>
<p>・研修の実施状況</p> <p>2020年7月16日「外部監査委員会報告」 診療録の記載について、手術記録の完成率を上げるよう改善</p> <p>2020年11月6日「個人情報保護に関する研修会」 個人情報保護について</p> <p>2021年1月12日「保険診療等に関する研修会」 令和元年度 特定共同指導（再指導）の指摘事項について</p> <p>2021年2月18日「安全管理に関する研修会」 高難度新規医療技術、未承認新規医薬品等、適応外医薬品等について</p>

（注）前年度の実績を記載すること（⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること）

<p>⑫ 管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況</p>
<p>・研修の実施状況</p> <p>管理者 2020年10月15日(木) 公益財団法人日本医療機能評価機構開催 「特定機能病院管理者研修」</p> <p>医療安全管理責任者 2020年12月10日(木) 公益財団法人日本医療機能評価機構開催 「特定機能病院管理者研修」</p>

医薬品安全管理責任者

2020年10月15日(木)

公益財団法人日本医療機能評価機構開催 「特定機能病院管理者研修」

医療機器管理責任者

2021年1月17日(日)

公益財団法人日本医療機能評価機構開催 「特定機能病院管理者研修」

(注) 前年度の実績を記載すること

⑭医療機関内における事故の発生の防止に係る第三者による評価の受審状況、当該評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況、当該評価を踏まえ講じた措置の状況

・ 第三者による評価の受審状況

2012年2月に日本医療機能評価機構における一般病院2(Ver. 6. 0)を受審後認定

2017年2月に日本医療機能評価機構における一般病院2(3rdG Ver. 1. 1)を受審後認定 (現在継続中)

2022年6月に特定機能病院に新たに設けられた一般病院3(3rdG Ver. 2)を受審予定

別途様式8-3にて計画提出

・ 評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況

・ 評価を踏まえ講じた措置

(注) 記載時点の状況を記載すること

診療録等の記載内容の確認及び指導の主な内容（2021年度）

診療録の記載内容の確認

（1）量的点検

点検実施者：診療情報管理士

点検方法：該当月退院分全件をチェックリストに沿って点検する（隔月）

（2）質的点検

点検実施者：診療録管理責任者・診療情報管理士

点検方法：全診療科（内科・外科はチームごと）患者1名（全26件）を選びチェックリストに沿って点検を行う（隔月）

（3）様式・記載内容の統一化を行った記録に対し不定期に記載内容を確認

点検実施者：診療情報管理士 アドバイザー：保険指導部長

点検方法：

①全科統一手術室手術記録

手術室を利用した手術記録全件に対し量的点検を実施、未作成や不備について診療科に督促を実施（毎週）

②インフォームドコンセント記録

隔月で手術室を使用した手術を実施した患者について決められたテンプレートを利用して記載を行っているか、統一された説明書や承諾書が不備なく取り込まれているかを確認（隔月）

③入院時記録

退院時サマリーを利用して不備なく記載されているか確認（不定期）

④症例カンファレンス記録

決められたフォームを利用して不備なく記載されているか確認（不定期）

⑤指導医記録

指導医承認の確認（毎月）

退院後指導医コメントが記載されているか確認（隔月）

主な指導内容

- ・入院時記載は決められたフォームで記載するよう指導。
- ・手術等の説明時には承認済みの説明書を使用し、インフォームドコンセント記録は決められたテンプレートを使用するよう指導。
- ・症例カンファレンス記録について症例カンファレンスのみに使用し、デイリーカンファレンスはプログレスノートに記載するよう指導。

- ・手術室手術記録について手術所見のスキャンがないものに対し早急にスキャンするように指導。
 - ・研修医に対する指導医記録について退院後コメントを記載するように指導。
- 次回点検時まで改善を求めた。

- ⑩当該院内に患者からの安全管理にかかる相談に適切に応じる体制の確保状況
・体制の確保状況

○設置年月日 2003年4月1日

(設置状況等)

○窓口名称 患者相談室

○相談日及び相談時間帯 診療時間内

月曜～金曜日 9:00～17:00

土曜日 9:00～12:30

○対応職員名及び職種 社会福祉士

課長

課長補佐

係長

○活動状況等

1.窓口の活動に関する患者等への明示

病院正面玄関インフォメーションボード、各科外来電子掲示板に「活動の趣旨・対応時間・担当責任者名・設置場所案内図」、相談室入口及びカウンター内に「活動の趣旨・対応時間・担当責任者名」を掲示している。また、入院のご案内、病院ホームページにも掲載している。

2.規約の整備状況

2003年4月1日施行する

2009年5月1日改定施行する

2011年4月1日改定施行する

2013年4月1日改定施行する

2014年9月3日改訂施行する

2016年7月6日改訂施行する

2018年4月1日改定施行する

2019年6月1日改定施行する

3.相談により患者や家族が不利益を受けないような適切な配慮

- ・患者等の不安を払拭するためには、

相談者にお話をお伺いした際に対応方法についてのご意向を伺い、匿名を希望される場合はその希望に従うことをお伝えしている。また、お名前を明らかにしていただく場合も、相談したことにより不利益を被ることがないことを説明差し上げるなど心理的な不安等が残らないように対応している。

・職員の認識

患者本人や家族等からのご意見等については所属長を通じ各職員に対して真摯に受け止め対応するよう指導している。また、毎月行われるリスクマネージャー会議及び診療連絡委員会をはじめ病院研修会等機会ある毎に職員指導を行っている。

4.電話、ご意見箱、インターネット相談の実施など相談窓口以外の相談の受付方法

- ・電話相談あり
- ・ご意見箱の設置あり（21ヶ所）
- ・インターネットの相談なし

5.苦情、相談内容の共有

相談者からお伺いした苦情等を相談報告書にまとめ、該当部署の所属長及びリスクマネージャー、病院長宛に速やかに報告している。病院長宛の報告書は安全管理部、総務課長、事務長、安全管理担当副院長補佐、診療担当副院長、安全管理担当副院長を経て病院長に届けられる。該当部署については、所属長宛てに報告すると同時にリスクマネージャーを通じ該当職員に報告し、早急に対応を図るよう努めている。

各部署は、対応が済み次第その対応方法及び結果等を相談室経由で院長宛に報告し、相談内容によっては、該当部署から安全管理部会での検討が依頼されその指示に従い対応している。

(別添資料参照)

6.患者等へのセカンドオピニオン選択肢の推進 有 及び受入 有

規則第7条の2の2第1項各号に掲げる管理者の資質及び能力に関する基準

<p>管理者に必要な資質及び能力に関する基準</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 基準の主な内容 <ol style="list-style-type: none"> 1. 医師免許を有している者 2. 医療安全管理業務の経験や、患者安全を第一に考える姿勢及び指導力を有し、医療安全確保のために必要な資質・能力を有している者 3. 当院または当院以外の病院での組織管理経験、高度な医療を司る特定機能病院の管理運営上必要な資質・能力を有している者 4. 帝京大学の建学の精神を深く理解し、当院の理念である「患者そして家族と共にあゆむ医療」を確実に実践できる者 ・ 基準に係る内部規程の公表の有無 (<input checked="" type="radio"/> ・ 無) ・ 公表の方法 病院ホームページ

規則第7条の3第1項各号に掲げる管理者の選任を行う委員会の設置及び運営状況

前年度における管理者の選考の実施の有無	有・ <input checked="" type="radio"/>			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 選考を実施した場合、委員会の設置の有無 (有・無) ・ 選考を実施した場合、委員名簿、委員の経歴及び選定理由の公表の有無 (有・無) ・ 選考を実施した場合、管理者の選考結果、選考過程及び選考理由の公表の有無 (有・無) ・ 公表の方法 <p>2018年度 病院長選考委員会にて、任期を2019年4月1日～2022年3月31日と決定しており、2020年度の選考会は行っていない。</p>				
管理者の選任を行う委員会の委員名簿及び選定理由				
氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	特別の関係
別紙13参照				有・無
				有・無
				有・無
				有・無

帝京大学医学部附属病院 病院長選考委員会委員名簿

委員	氏名	現職	経歴	選定理由
委員長	冲永 寛子	常務理事	帝京大学医師会長、副学長を歴任し現職	「病院長選考規程」に基づき、帝京大学理事会を代表する者として委員に選出。 理事長が委員長に指名。
学内委員	川村 雅文	医学部長	外科主任教授、副院長を経て現職	「病院長選考規程」に基づき、医学部を統括する者として委員に選出。
”	岡本 幸英	中央放射線部技師長	副技師長、診療放射線学科長を歴任し現職	「病院長選考規程」に基づき、メディカルスタッフを代表する者として委員に選出。
学外委員	寺尾 壽夫	東京都医師国保組合議員	特別養護老人ホーム寿栄園施設長、千代田区嘱託医を経て現職	「病院長選考規程」に基づき、帝京大学医学部附属病院監査委員会委員長として学外委員に選出。
”	高野 正敏	社会福祉法人あしたば中野学園学園長	千葉県地域自立支援協議会会長、千葉県社会福祉協議会理事を経て現職	「病院長選考規程」に基づき、社会福祉関係の豊富な経験を有する者として学外委員に選出。
”	斉木 進	社会福祉法人寿永会相模湖みどりの丘副施設長	山梨中央銀行支店長、営業推進室長を経て現職	「病院長選考規程」に基づき、企業のマネジメントに豊富な経験を有する者として学外委員に選出。

規則第9条の23第1項及び第2項に掲げる病院の管理及び運営を行うための合議体の設置及び運営状況

合議体の設置の有無	有・無
<ul style="list-style-type: none"> ・ 合議体の主要な審議内容 病院の運営方針、中期計画、予算及び決算その他の病院の運営等 ・ 審議の概要の従業者への周知状況 臨床科長会議等を通じてすべての部署へ説明している。 ・ 合議体に係る内部規程の公表の有無（有・無） ・ 公表の方法 ・ 外部有識者からの意見聴取の有無（有・無） 	

合議体の委員名簿

氏名	委員長 (○を付す)	職種	役職
冲永寛子		医師	常務理事
坂本哲也	○	医師	病院長
河野博隆		医師	診療担当副院長
澤村成史		医師	安全管理担当副院長
溝田 淳		医師	総務担当副院長
佐野圭二		医師	診療担当副院長補佐
上妻 謙		医師	安全管理担当副院長補佐・医療機器安全管理担当責任者
山本貴嗣		医師	総務担当副院長補佐
土谷明子		看護師	看護部長
安野伸浩		薬剤師	薬剤部長・医薬品安全管理担当責任者
内山喜代志		放射線技師	中央放射線部技師長
和久正志		事務職員	事務長
稲垣宏治		事務職員	総務課長
小久保真		事務職員	医事課長
川村雅文〈オブザーバー〉		医師	医学部長
村松直樹〈オブザーバー〉		事務職員	内部監査室長

規則第15条の4第1項第1号に掲げる管理者が有する権限に関する状況

管理者が有する病院の管理及び運営に必要な権限

- ・ 管理者が有する権限に係る内部規程の公表の有無（有・）
- ・ 公表の方法

- ・ 規程の主な内容
別紙 14 参照（帝京大学医学部附属病院 病院長・副院長業務細則）

- ・ 管理者をサポートする体制（副院長、院長補佐、企画スタッフ等）及び当該職員の役割
別紙 14 参照（帝京大学医学部附属病院 病院長・副院長業務細則）

- ・ 病院のマネジメントを担う人員についての人事・研修の状況
 - ・ 院内研修として、マネジメントに関する職員研修会を計画的に実施している。
 - ・ 外部研修にも積極的に参加している（特定機能病院管理者研修、医療安全管理者養成講習会など）。
 - ・ 特定機能病院管理者研修へ病院長が講師として参加。（2020年11月2日（月）・12月24日（木））

帝京大学医学部附属病院 病院長・副院長業務細則

(目的)

第1条 この細則は、帝京大学医学部附属病院（以下、「当院」という。）における医療提供の責任者である病院長が当院の管理運営に必要な指導力を発揮して医療安全等を確保するために、病院長が有する権限を明確化することを目的とする。また、病院長をサポートする副院長等の役割を明確化し、当院医療体制の質の向上に寄与することを目的とする。

(病院長の役割)

第2条 病院長は、理事長から権限移譲を受け、以下の職務を執り行う。

- (1) 安全管理部、感染制御部など、院内最重要部門を直属の組織として管理する。
- (2) 副院長、副院長補佐を統括して病院運営を行う。
- (3) 病院内各種委員会の委員長を任命する。
- (4) 医学部准教授以上の臨床系教員の採用・昇任等に、病院長の立場で審議に加わる。
- (5) 病院の管理運営責任者として、医療機器購入の必要性や機器選定の検討を行う。

(副院長の役割)

第3条 副院長は、帝京大学医学部附属病院規程に基づき、以下の職務を執り行う。

- (1) 病院長の業務を補佐し、病院長不在にあたってはその業務を代行する。
- (2) 診療部門、安全管理部門、総務部門の3部門を分掌する。
- (3) 診療部門の担当副院長は、患者診療と患者支援を担当する。
- (4) 安全管理部門の担当副院長は、医療安全、倫理および施設設備管理を担当する。
- (5) 総務部門の担当副院長は、職員管理、教育研修および情報管理を担当する。
- (6) 病院長および副院長補佐と分担し、病院内の各種委員会を統括する。
- (7) 副院長補佐と分担し、関連する診療科ごとに安全管理業務を担当する。

(副院長補佐の役割)

第4条 副院長補佐は、帝京大学医学部附属病院規程に基づき、以下の職務を執り行う。

- (1) それぞれの担当副院長の業務を補佐し、副院長不在にあたってはその業務を代行する。
- (2) 病院長および3名の副院長と分担し、病院内の各種委員会を統括する。
- (3) 副院長と分担し、関連する診療科ごとに安全管理業務を担当する。

(雑則)

第5条 この細則の改廃は、理事長の承認をもって決定する。

(附則)

この細則は、2018年8月15日から施行する。

規則第15条の4第1項第2号に掲げる医療の安全の確保に関する監査委員会に関する状況

監査委員会の設置状況					④・無
<ul style="list-style-type: none"> ・ 監査委員会の開催状況：年 2 回 ・ 活動の主な内容： 医療安全管理責任者、安全管理部、安全管理委員会、医薬品安全管理責任者、医療機器安全管理責任者等の業務の状況について附属病院の病院長等から報告を求め、現場を巡視し、必要に応じて自ら確認を行う。理事長又は病院長に対し、医療に係る安全管理についての是正措置を講ずるよう意見を表明する。 ・ 監査委員会の業務実施結果の公表の有無（ ④・無 ） ・ 委員名簿の公表の有無（ ④・無 ） ・ 委員の選定理由の公表の有無（ ④・無 ） ・ 監査委員会に係る内部規程の公表の有無（ 有・④ ） ・ 公表の方法： 病院ホームページに公表 					
監査委員会の委員名簿及び選定理由（注）					
氏名	所属	委員長 （○を 付す）	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
寺尾 壽夫	東京都医師国 保組合議員 脳神経内科医 師	○	・ 医療に係る安全管理に関する識見を有する者 ・ 脳神経内科医師として医療に造詣が深いため	有・④	1
秦 奈峰子	太田・佐藤法律 事務所 弁護士・医師		・ 医療に係る安全管理及び法律に関する識見を有する者 ・ 医師と弁護士の資格を持ち医療と法律双方を理解されているため	有・④	1
森 唯章	当院の患者代 表		・ 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者 ・ 当院に通院されている患者を代表して	有・④	2
川村 雅文	帝京大学医学 部長		・ 当院での臨床経験がある中立的な評価ができる立場にある者 ・ 医学部を統括する者として	④・無	3

（注） 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者

2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1.に掲げる者を除く。）
3. その他

規則第15条の4第1項第3号イに掲げる管理者の業務の執行が法令に適合することを確保するための体制の整備に係る措置

管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況

・体制の整備状況及び活動内容

理事会、監査委員会、監事、監査法人、内部監査室がそれぞれの視点で確認している。
今年度より、法人本部内に内部監査室を設置し、内部監査室長が病院運営会議にオブザーバー参加することで、定期的に病院運営状況を確認できるようにしている。

- ・ 専門部署の設置の有無（ 有 ・ 無 ）
- ・ 内部規程の整備の有無（ 有 ・ 無 ）
- ・ 内部規程の公表の有無（ 有 ・ 無 ）
- ・ 公表の方法

規則第15条の4第1項第3号ロに掲げる開設者による業務の監督に係る体制の整備に係る措置

開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の状況			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 病院の管理運営状況を監督する会議体の体制及び運営状況 別紙 15 参照 ・ 会議体の実施状況 (年 6 回) ・ 会議体への管理者の参画の有無および回数 (有・<input checked="" type="radio"/>) (年 回) ※常務理事から理事会へ報告されている ・ 会議体に係る内部規程の公表の有無 (有・<input checked="" type="radio"/>) ・ 公表の方法 			
病院の管理運営状況を監督する会議体の名称：			
会議体の委員名簿			
氏名	所属	委員長 (○を付す)	利害関係
			有・無

(注) 会議体の名称及び委員名簿は理事会等とは別に会議体を設置した場合に記載すること。

学校法人 帝京大学寄附行為

第一章 総 則

(名 称)

第 一 条 この法人は学校法人帝京大学と称する。

(事務所)

第 二 条 この法人の事務所を次の通り置く。

- 一、主たる事務所 東京都板橋区加賀二丁目11番1号
- 一、従たる事務所 東京都八王子市大塚359番地
- 一、従たる事務所 東京都多摩市和田1212番地

第二章 目的及び設置する学校

(目 的)

第 三 条 この法人は教育基本法及び学校教育法に従い、私立学校を設置し、建学の精神に基づいた教育を行い、有為な人材を育成することを目的とする。

(設置する学校)

第 四 条 この法人は前条の目的を達成するため、次に掲げる学校を設置する。

- | | |
|------------|--|
| 一、帝京大学 大学院 | 医学研究科 文学研究科 薬学研究科 経済学研究科 法学研究科 理工学研究科
理工学研究科(通信教育課程) 医療技術学研究科 教職研究科 公衆衛生学研究科
外国語研究科 保健学研究科 |
| 文学部 | 日本文化学科 史学科 社会学科 心理学科 |
| 外国語学部 | 外国語学科 |
| 教育学部 | 教育文化学科 初等教育学科 |
| 経済学部 | 経済学科 経営学科 観光経営学科 地域経済学科 国際経済学科 |
| 法学部 | 法律学科 政治学科 |
| 医学部 | 医学科 |
| 薬学部 | 薬学科 |
| 理工学部 | 機械・精密システム工学科 航空宇宙工学科
情報電子工学科 バイオサイエンス学科
情報科学科通信教育課程 |
| 医療技術学部 | 視能矯正学科 看護学科 診療放射線学科
臨床検査学科 スポーツ医療学科 柔道整復学科 |
| 福岡医療技術学部 | 理学療法学科 作業療法学科 看護学科
診療放射線学科 医療技術学科 |

- 二、帝京大学短期大学 人間文化学科 現代ビジネス学科
- 三、帝京大学高等学校 普通科（全日制課程）
- 四、帝京大学可児高等学校 普通科（全日制課程）
- 五、帝京大学中学校
- 六、帝京大学可児中学校
- 七、帝京大学小学校
- 八、帝京大学可児小学校
- 九、帝京幼稚園
- 一〇、帝京大学幼稚園
- 一一、帝京高等看護学院（医療専門課程）
- 一二、帝京山梨看護専門学校（医療専門課程）

第三章 役員及び理事会

（役員）

第五 条 この法人は次の役員を置く。

- 一、理事 七人
- 二、監事 二人
- 2 理事のうち一人を理事長とし、理事総数の過半数の議決により選任する。理事長の職を解任するときは、理事総数の三分の二以上の議決を要する。
- 3 理事（理事長を除く。）のうち一人を常務理事とし、理事総数の過半数の議決により選任する。常務理事の職を解任するときは、理事総数の三分の二以上の議決を要する。

（理事の選任）

第六 条 理事は次の各号に掲げるものとする。

- 一、帝京大学の学長
- 二、帝京大学の副学長、学部長、短期大学の学長のうちから理事会において選任した者 二人
- 三、評議員のうちから評議員会において選任した者 三人
- 四、学識経験者のうちから理事会において選任した者 一人
- 2 前項第一号、第二号、第三号の理事は学長、副学長、学部長、短期大学の学長又は評議員の職を退いたときは理事の職を失うものとする。

（監事の選任及び職務）

第七 条 監事はこの法人の理事、評議員又は職員（学長、校長、教員その他の職員を含む。以下同じ）以外の者のうちから評議員会の同意を得て理事長が選任する。

- 2 監事は次の各号に掲げる職務を行う。
 - 一、この法人の財産の状況を監査すること
 - 二、この法人の業務を監査すること
 - 三、この法人の業務又は財産の状況について、毎会計年度、監査報告書を作成し、

当該会計年度終了後二ヶ月以内に理事会及び評議員会に提出すること

- 四、第一号又は第二号の規定による監査の結果、この法人の業務又は財産に関し不正の行為又は法令若しくは寄附行為に違反する重大な事実があることを発見したときは、これを文部科学大臣に報告し、又は理事会及び評議員会に報告すること
- 五、前号の報告をするために必要があるときは、理事長に対して評議員会の招集を請求すること
- 六、この法人の業務又は財産の状況について、理事会に出席して意見を述べること

(役員任期)

- 第八條 役員(第六條第1項第一号に掲げる理事を除く。以下この条において同じ)の任期は四年とする。ただし補欠の役員の任期は前任者の残任期間とする。
- 2 役員は再任されることができる。
 - 3 役員は任期満了のあとでも後任の役員が選任されるまではなおその職務を行う。

(役員補充)

- 第九條 理事又は監事のうち、その定数の五分の一をこえる者が欠けたときは一ヶ月以内に補充しなければならない。

(役員解任及び退任)

- 第十條 役員が次の各号の一に該当するに至ったときは、理事総数の四分の三以上出席した理事会において理事総数の四分の三以上の議決及び評議員会において評議員総数の三分の二以上の議決によりこれを解任することができる。
- 一、法令の規定又はこの寄附行為に著しく違反したとき
 - 二、心身の故障のため職務の執行に堪えないとき
 - 三、職務上の義務に著しく違反したとき
- 2 役員は次の事由によって退任する。
- 一、任期の満了
 - 二、辞任
 - 三、学校教育法第九條各号に掲げる事由に該当するに至ったとき

(理事会)

- 第十一條 この法人に理事会を置く。
- 2 理事会は理事をもって組織する。
 - 3 理事会は、学校法人の業務を決し、理事の職務の遂行を監督する。
 - 4 理事会は理事長が招集する。
 - 5 理事長は理事総数の三分の二以上の理事から会議に付議すべき事項を示して理事会の招集を請求された場合にはその請求のあった日から七日以内にこれを招集しなければならない。
 - 6 理事会を招集するには各理事に対して会議開催の場所及び日時並びに会議に付議すべき事項を書面により通知しなければならない。

- 7 前項の通知は会議の七日前までに発しなければならない。
たゞし緊急を要する場合はこの限りでない。
- 8 理事会に議長を置き理事長をもって充てる。
- 9 理事長が第5項の規定による招集をしない場合には招集を請求した理事全員が連名で理事会を招集することができる。この場合における理事会の議長は出席理事の互選によって定める。
- 10 理事会はこの寄附行為に別段の定めがある場合を除く外理事総数の過半数以上の理事が出席しなければ会議を開き、議決をすることができない。
たゞし第13項の規定による除斥のため過半数に達しないときにはこの限りでない。
- 11 前項の場合において理事会に付議される事項につき書面をもってあらかじめ意思表示をした者は出席者とみなす。
- 12 理事会の議事は法令及びこの寄附行為に別段の定めのある場合を除く外出席理事の過半数で決し、可否同数のときは議長の決するところによる。
- 13 理事会の決議について直接の利害関係を有する理事はその議事の議決に加わることができない。

(業務の決定の委任)

第十二条 法令及びこの寄附行為の規定により評議員会に付議しなければならない事項その他この法人の業務に関する重要事項以外の決定であつて、あらかじめ理事会において定めたものについては、理事会において指名した理事に委任することができる。

(理事長及び常務理事の職務)

第十三条 理事長は、この法人を代表し、その業務を総理する。
2 常務理事は、理事長の業務を補佐し、この法人を代表する。

(理事の代表権の制限)

第十四条 理事長及び常務理事以外の理事はこの法人の業務についてこの法人を代表しない。

(理事長職務の代理等)

第十五条 理事長に事故あるとき又は理事長が欠けたときはあらかじめ理事会において指名された理事がその職務を代理し又はその職務を行う。

(議事録)

第十六条 議長は理事会の開催の場所及び日時並びに議決事項及びその他の事項について議事録を作成しなければならない。
2 議事録には出席理事全員が署名(記名)捺印し、常にこれを事務所に備えておかなければならない。

第四章 評議員会及び評議員

(評議員会)

- 第十七条 この法人に評議員会を置く。
- 2 評議員会は十五人の評議員をもって組織する。
 - 3 評議員会は理事長が招集する。
 - 4 理事長は評議員総数の三分の一以上の評議員から会議に付議すべき事項を示して評議員会の招集を請求された場合には、その請求のあった日から二十日以内にこれを招集しなければならない。
 - 5 評議員会を招集するには各評議員に対して会議開催の場所及び日時並びに会議に付議すべき事項を書面により通知しなければならない。
 - 6 前項の通知は会議の七日前までに発しなければならない。
ただし緊急を要する場合はこの限りでない。
 - 7 評議員会に議長を置き評議員たる理事長が議長となる。
 - 8 評議員会は評議員総数の過半数の出席がなければ、その議事を開き議決することができない。
 - 9 前項の場合において評議員会に付議される事項につき書面をもって、あらかじめ意思表示した者は出席者とみなす。
 - 10 評議員会の議事は出席評議員の過半数で決し、可否同数のときは議長の決するところによる。
 - 11 前項の場合において議長は評議員として議決に加わることができない。

(議事録)

- 第十八条 第十六条の規定は評議員会の議事録について準用する。この場合において同条第2項中「出席理事全員」とあるのは「議長及び出席評議員のうちから互選された評議員二人以上」と読み替えるものとする。

(諮問事項)

- 第十九条 次の各号に掲げる事項については理事長においてあらかじめ評議員会の意見を聞かなければならない。
- 一、予算、借入金（当該会計年度内の収入をもって償還する一時の借入金を除く）及び基本財産の処分並びに運用財産中の不動産及び積立金の処分
 - 二、事業計画
 - 三、予算外の新たな義務の負担又は権利の放棄
 - 四、寄附行為の変更
 - 五、合併
 - 六、目的たる事業の成功の不能による解散
 - 七、寄附金品の募集に関する事項
 - 八、その他この法人の業務に関する重要事項で理事会において必要と認めるもの

(評議員会の意見具申等)

- 第二十条 評議員会はこの法人の業務若しくは財産の状況又は役員の業務執行の状況について役員に対して意見を述べ若しくはその諮問に答え又は役員から報告を徴することができる。

(評議員の選任)

第二十一条 評議員は次の各号に掲げる者とする。

- 一、この法人の職員（この法人の設置する学校の教員及び事務職員を含む）で理事会において推薦された者のうちから評議員会において選任した者 五人
 - 二、この法人の設置する学校を卒業した者で年齢二五才以上の者のうちから理事会において選任した者 一人
 - 三、学識経験者のうちから理事会において選任した者 四人
 - 四、この法人に功労ありたる者のうちから理事会において選任した者 五人
- 2 前項第一号に規定する評議員はこの法人の役職員を退いたときは評議員の職を失うものとする。

（任 期）

- 第二十二條 評議員の任期は四年とする。たゞし補欠の評議員の任期は前任者の残任期間とする。
- 2 評議員は再任されることができる。
 - 3 評議員は任期満了の後でも後任の評議員が選任されるまではなおその職務を行う。

第五章 資産及び会計

（資 産）

- 第二十三條 この法人の資産は財産目録記載のとおりとする。

（資産の区分）

- 第二十四條 この法人の資産はこれを分けて基本財産、運用財産とする。
- 2 基本財産はこの法人の設置する学校に必要な施設及び設備又はこれらに要する資金とし、財産目録中基本財産の部に記載する財産及び将来基本財産に編入される財産とする。
 - 3 運用財産はこの法人の設置する学校の経営に必要な財産とし、財産目録中運用財産の部に記載する財産及び将来運用財産に編入される財産とする。
 - 4 寄附金品については寄附者の指定がある場合にはその指定に従って基本財産又は運用財産に編入する。

（基本財産の処分の制限）

- 第二十五條 基本財産はこれを処分してはならない。たゞしこの法人の事業の遂行上やむを得ない理由のあるときには理事会において理事総数の三分の二以上の議決を得てその一部に限り処分することができる。

（積立金の保管）

- 第二十六條 基本財産及び運用財産中の積立金は確実な有価証券を購入し又は確実な信託銀行に信託し又は確実な銀行に定期預金とし若しくは定額郵便貯金として理事長が保管する。

（経費の支弁）

- 第二十七條 この法人の設置する学校の経営に要する費用は基本財産並びに運用財産中の不動産及び積立金から生ずる果実、授業料収入、保育料収入、その他の学生

納付金収入、入学金収入、入園料収入、検定料収入、考査料収入その他の運用財産をもって支弁する。

(会 計)

第二十八条 この法人の会計は学校法人会計基準により行う。

(予算及び事業計画)

第二十九条 この法人の予算及び事業計画は毎会計年度開始前に、理事長が編成して理事会において出席理事の三分の二以上の議決を得なければならない。これに重要な変更を加えようとするときも同様とする。

(予算外の新たな義務の負担又は権利の放棄)

第三十条 予算をもって定めるものを除くほか、新たに義務の負担をし又は権利の放棄をしようとするときは理事会において出席理事の三分の二以上の議決がなければならない。

借入金（当該会計年度内の収入をもって償還する一時の借入金を除く）についても同様とする。

(決算及び実績の報告)

第三十一条 この法人の決算は毎会計年度終了後二ヶ月以内に作成し監事の意見を求めるものとする。

2 理事長は毎会計年度終了後二ヶ月以内に決算及び事業の実績を評議員会に報告しその意見を求めなければならない。

(財産目録等の備付及び閲覧)

第三十二条 この法人は、毎会計年度終了後二ヶ月以内に財産目録、貸借対照表、収支計算書及び事業報告書を作成しなければならない。

2 この法人は、前項の書類及び第七条第2項第三号の監査報告書を各事務所に備えて置き、この法人の設置する私立学校に在学する者その他の利害関係人から請求があった場合には、正当な理由がある場合を除いて、これを閲覧に供しなければならない。

(資産総額の変更登記)

第三十三条 この法人の資産総額の変更は毎会計年度末の現在により会計年度終了後三ヶ月以内に登記しなければならない。

(会計年度)

第三十四条 この法人の会計年度は四月一日に始まり翌年三月三十一日に終わるものとする。

第六章 解散及び合併

(解 散)

第三十五条 この法人は次の各号に掲げる理由によって解散する。

- 一、理事会における理事総数の三分の二以上の議決及び評議員会の議決
- 二、この法人の目的たる事業の成功の不能となった場合で理事会における出席理事の三分の二以上の議決

三、合 併

四、破 産

五、文部科学大臣の解散命令

- 2 前項第一号に掲げる事由による解散にあつては文部科学大臣の認可を同項第二号に掲げる事由による解散にあつては文部科学大臣の認定を受けなければならない。

(残余財産の帰属者)

第三十六条 この法人が解散した場合（合併又は破産によって解散した場合を除く）における残余財産は解散のときにおける理事会において出席理事の三分の二以上の議決により選定した学校法人又は教育の事業を行う公益法人に帰属する。

(合 併)

第三十七条 この法人が合併しようとするときは理事会において理事総数の三分の二以上の議決を得て文部科学大臣の認可を受けなければならない。

第七章 寄附行為の変更

(寄附行為の変更)

- 第三十八条 この寄附行為を変更しようとするときは理事会において理事総数の三分の二以上の議決を得て文部科学大臣の認可を受けなければならない。
- 2 私立学校法施行規則に定める届出事項については、前項の規定にかかわらず、理事会において出席理事の三分の二以上の議決を得て、文部科学大臣に届け出なければならない。

第八章 補 則

(書類及び帳簿の備付)

- 第三十九条 この法人は第三十二条第2項の書類の他、次の各号に掲げる書類及び帳簿を常に各事務所に備えて置かなければならない。
- 一、寄附行為
 - 二、役員及び評議員の名簿及び履歴書
 - 三、収入及び支出に関する帳簿及び証票書類
 - 四、その他の必要書類及び帳簿

(公告の方法)

第四十条 この法人の公告は学校法人帝京大学の掲示場に掲示して行う。

(施行細則)

第四十一条 この寄附行為の施行についての細則その他この法人及びこの法人の設置する学校の管理及び運営に関して必要な事項は理事会が定める。

附 則

- 一、この寄附行為は昭和二十六年三月三十日から施行する。
- 二、この法人の設立当初の役員は次のとおりとする。

理事（理事長）	冲 永 荘 兵 衛
理 事	冲 永 荘 一
理 事	尾 中 勝 也
理 事	藤 原 澄 雄
理 事	忠 石 弘 治
監 事	三 宅 正 太 郎
監 事	三 宅 清 子

附 則

この寄附行為は昭和三十四年三月から施行する。

附 則

この寄附行為は昭和三十六年三月から施行する。

附 則

この寄附行為は昭和三十七年二月八日から施行する。

附 則

この寄附行為は昭和三十八年三月十四日から施行する。

附 則

この寄附行為は昭和四十年三月二十日から施行する。

附 則

この寄附行為は昭和四十一年一月二十五日から施行する。

附 則

この寄附行為は昭和四十二年二月七日から施行する。

附 則

この寄附行為は昭和四十二年三月七日から施行する。

附 則

この寄附行為は昭和四十五年三月から施行する。

附 則

この寄附行為は昭和四十六年三月三十一日から施行する。

附 則

この寄附行為は昭和四十八年三月二十八日から施行する。

附 則

この寄附行為は昭和五十二年一月十日から施行する。

附 則

この寄附行為は昭和五十二年三月三十日から施行する。

附 則

この寄附行為は昭和五十四年三月三十日から施行する。

附 則

この寄附行為は昭和五十四年四月一日から施行する。

附 則

- この寄附行為は昭和五十六年三月二十六日から施行する。
- 附 則
この寄附行為は昭和五十七年三月十七日から施行する。
- 附 則
この寄附行為は昭和五十八年三月七日から施行する。
- 附 則
この寄附行為は昭和五十八年三月二十四日から施行する。
- 附 則
この寄附行為は昭和五十八年十二月二十二日から施行する。
- 附 則
この寄附行為は昭和五十九年三月一日から施行する。
- 附 則
この寄附行為は昭和六十年十二月二十五日から施行する。
- 附 則
この寄附行為は昭和六十二年二月三日から施行する。
- 附 則
この寄附行為は昭和六十二年四月一日から施行する。
- 附 則
この寄附行為は昭和六十二年十二月二十三日から施行する。
- 附 則
この寄附行為は昭和六十三年一月十三日から施行する。
- 附 則
この寄附行為は昭和六十三年十二月二十二日から施行する。
- 附 則
この寄附行為は平成元年三月十三日から施行する。
- 附 則
この寄附行為は平成六年四月一日から施行する。
- 附 則
この寄附行為は平成九年四月一日から施行する。
- 附 則
この寄附行為は平成十年四月一日から施行する。
- 附 則
この寄附行為は平成十一年四月一日から施行する。
- 附 則
この寄附行為は平成十二年四月一日から施行する。
- 附 則
この寄附行為は、平成十三年四月一日から施行する。
(帝京大学福岡短期大学の経営情報学科の存続に関する経過措置)
帝京大学福岡短期大学の経営情報学科は、改正後の寄附行為第四条第三号の規定

にかかわらず平成十三年三月三十一日に当該学科に在学する者が当該学科に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。

附 則

この寄附行為は、平成十四年四月一日から施行する。

附 則

この寄附行為は、平成十六年三月五日から施行する。

附 則

この寄附行為は、平成十六年三月十三日から施行する。

附 則

平成十五年十一月二十七日文部科学大臣認可のこの寄附行為は、平成十六年四月一日から施行する。

附 則

平成十六年十二月二十四日文部科学大臣認可のこの寄附行為は、平成十七年四月一日から施行する。

附 則

平成十七年三月三十日文部科学大臣認可のこの寄附行為は、平成十七年四月一日から施行する。

附 則

この寄附行為は、平成十七年四月一日から施行する。

(帝京大学文学部日本アジア言語文化学科の存続に関する経過措置)

帝京大学文学部日本アジア言語文化学科は、改正後の寄附行為第四条第一号の規定にかかわらず平成十七年三月三十一日に当該学科に在学する者が当該学科に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。

附 則

この寄附行為は、理事会承認の日（平成十七年十二月四日）から施行する。

附 則

- 一、この寄附行為は文部科学大臣の認可を受けた日（平成十八年三月十日）から施行する。
- 二、この寄附行為による改正後の役員の任期及び評議員の任期の規定は、この寄附行為改正後新たに選任された役員及び評議員から適用し、この寄附行為改正前からの役員及び評議員については、なお従前の例による。

附 則

平成十八年一月三十一日文部科学大臣認可のこの寄附行為は、平成十八年四月一日から施行する。

附 則

この寄附行為は、平成十八年四月一日から施行する。

(帝京大学経済学部環境ビジネス学科の存続に関する経過措置)

帝京大学経済学部環境ビジネス学科は、改正後の寄附行為第四条の規定にかかわらず平成十八年三月三十一日に当該学科に在学する者が当該学科に在学しなく

なるまでの間、存続するものとする。

(帝京大学短期大学国際コミュニケーション学科、情報ビジネス学科の存続に関する経過措置)

帝京大学短期大学国際コミュニケーション学科、情報ビジネス学科は、改正後の寄附行為第四条の規定にかかわらず平成十八年三月三十一日に当該学科に在学する者が当該学科に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。

附 則

この寄附行為は、文部科学大臣の認可の日（平成十八年六月十四日）から施行する。

附 則

この寄附行為は、文部科学大臣の認可の日（平成十八年十一月三十日）から施行する。

附 則

平成十八年十一月三十日文部科学大臣認可のこの寄附行為は、平成十九年四月一日から施行する。

附 則

この寄附行為は、平成十九年四月一日から施行する。

附 則

この寄附行為は、文部科学大臣の認可の日（平成二十年三月二十一日）から施行する。

附 則

この寄附行為は、平成二十年四月一日から施行する。

附 則

この寄附行為は、文部科学大臣の認可の日（平成二十年十一月十四日）から施行する。

附 則

平成二十年十二月二十四日文部科学大臣認可のこの寄附行為は、平成二十一年四月一日）から施行する。

附 則

この寄附行為は、平成二十二年四月一日から施行する。

附 則

平成二十二年十月二十九日文部科学大臣認可のこの寄附行為は、平成二十三年四月一日から施行する。

附 則

この寄附行為は、平成二十三年四月一日から施行する。

附 則

この寄附行為は、平成二十三年六月十八日から施行する。

附 則

この寄附行為は、文部科学大臣の認可の日（平成二十三年十一月三十日）から施

行する。

附 則

平成二十四年一月五日文部科学大臣認可のこの寄附行為は、平成二十四年四月一日から施行する。

附 則

この寄附行為は、平成二十四年四月一日から施行する。

附 則

この寄附行為は、平成二十四年五月二十七日から施行する。

附 則

平成二十四年十一月二十日文部科学大臣認可のこの寄附行為は、平成二十五年四月一日から施行する。

附 則

この寄附行為は、平成二十五年十二月一日から施行する。

附 則

この寄附行為は、平成二十六年四月一日から施行する。

附 則

この寄附行為は、平成二十六年六月一日から施行する。

附 則

この寄附行為は、平成二十七年四月一日から施行する。

附 則

この寄附行為は、文部科学大臣の認可の日（平成三十年一月二十四日）から施行する。

附 則

この寄附行為は、平成三十年四月一日から施行する。

附 則

この寄附行為は、平成三十年六月一日から施行する。

規則第 15 条の 4 第 1 項第 4 号に掲げる医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付ける窓口の状況

窓口の状況
<ul style="list-style-type: none">・ 情報提供を受け付けるための窓口の設置の有無 (<input checked="" type="radio"/> ・ 無)・ 通報件数 (年 0 件)・ 窓口に提供する情報の範囲、情報提供を行った個人を識別することができないようにするための方策その他窓口の設置に関する必要な定めの有無 (<input checked="" type="radio"/> ・ 無)・ 窓口及びその使用方法についての従業者への周知の有無 (<input checked="" type="radio"/> ・ 無)・ 周知の方法 電子カルテトップページからの閲覧、新入職員オリエンテーションでの通知、安全管理マニュアル院内感染対策要綱ポケット版を全職員に配布

(様式第 7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類（任意）

1 果たしている役割に関する情報発信

① 果たしている役割に関する情報発信の有無	④・無
<p>・情報発信の方法、内容等の概要</p> <p>○ホームページ・広報誌 各診療科の紹介や診療内容、特色、外来診療担当表等、患者に対し分かりやすく適切に表示している。</p> <p>○地域住民や患者に向けた公開講座の実施 年によって異なるが、年間最高で6回実施をしており、社会的にも話題になっている生活習慣病や心臓疾患等、専門分野別にテーマを決め、各診療科の医師が病状や受診のタイミング等も分かりやすく説明している。</p> <p>○その他 各診療科、看護部等で地域住民や患者に対し、市民公開講座や体験講座等を実施している。（ナーシングフェスタ、がん情報サロン等）</p>	

2 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

① 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	④・無
<p>・複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要</p> <p>○E R及び外傷センター E Rは1次から2次までの疾患患者に対応し、その内外傷患者は外傷センターの医師が対応している。また、同じフロアに3次救急に対応する救命救急センターが隣接しているので、救命救急センター・E R・外傷センターの連携も緊密になっている。 全診療科に支援体制があり、24時間体制で該当科にコンサルト可能である。</p> <p>○循環器センター 循環器内科、心臓血管外科との連携・協力体制で行っている。カテーテルによる大動脈弁に対する人工弁の植え込みも可能であるが、循環器内科、心臓血管外科、麻酔科によるハートチームを形成し更なる連携体制を整えている。</p> <p>○静脈瘤センター 皮膚科・循環器内科・心臓血管外科との連携・協力体制で行っている。静脈瘤の有無や程度を超音波で検査し、現状の評価と適切な治療の提案を行っている。</p> <p>○スポーツ外傷・関節鏡センター 帝京大学スポーツ医科学センターとの連携や各関節の専門医・リハビリ医とも協力し、スポーツ活動の受傷前レベルへの早期復帰のため診療を行っている。</p> <p>○周術期管理センター 外科系医師、看護師、麻酔科医師、コンサルト先診療科、歯科口腔外科、薬剤部、栄養部、リハビリテーション部、ME部、事務部、医療システム部などがそれぞれの専門分野を生かし、患者家族が周術期を乗り切るためのベストな環境を提供している。</p> <p>○その他 集中治療部（G I C U）や帝京がんセンター等も複数の診療科と連携体制がある。 上記以外の専門診療センター</p>	

(様式第 8-3)

番 21-757 号
令和 3年10月 2日

厚生労働大臣 殿

学校法人 帝京大学
開設者名 理事長 冲永 佳史

帝京大学医学部附属病院の第三者による評価を受審する計画について

標記について、次のとおり提出します。

記

1 受審予定である第三者評価

- | |
|---|
| ① 公益財団法人日本医療機能評価機構が実施する病院機能評価のうち、一般病院3による評価 |
| 2 Joint Commission Internationalが実施する、JCI 認証による評価 |
| 3 ISO 規格に基づく、ISO 9001 認証による評価 |

(注) 上記のいずれかを選択し、番号に○を付けること。

2 第三者評価を受けるための予定措置

2012年2月に日本医療機能評価機構における一般病院2 (Ver. 6.0) を受審後認定 2017年2月に日本医療機能評価機構における一般病院2 (3rdG Ver. 1.1) を受審後認定 (現在継続中) 2022年6月に特定機能病院に新たに設けられた一般病院3 (3rdG Ver. 2) を受審予定
